



2022年3月期 決算説明会資料

2022年3月期決算 & 2023年3月期業績予想

日本発条株式会社(東証プライム市場 5991)
NHK Spring Co., Ltd.(5991/TSE Prime Market)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

ご挨拶

代表取締役社長

茅本 隆司

2023中計

～ 持続的な成長を目指す ～
～ 真直ぐ、自由闊達に ～

NHKニッパツ



ニッパツウェイ
NHK SPRING WAY

1. CSR活動の更なる推進

- ・ステークホルダーとの信頼関係の一層の強化
- ・環境、社会課題への真摯な取り組み
- ・品質第一のものづくりを徹底

2. 激変する事業環境への対応を加速

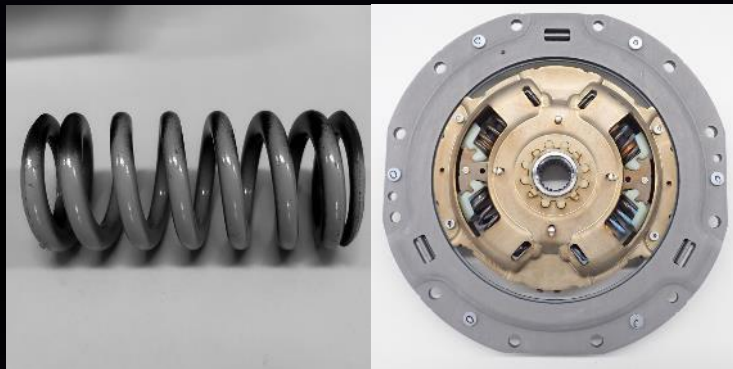
- ・自動車の電動化、自動運転への対応を強化
- ・次世代基幹事業を創出

3. 持続的な成長のための"もうけ"を確保

- ・魅力ある商品を開発
- ・更なる総原価低減



電動化対応製品



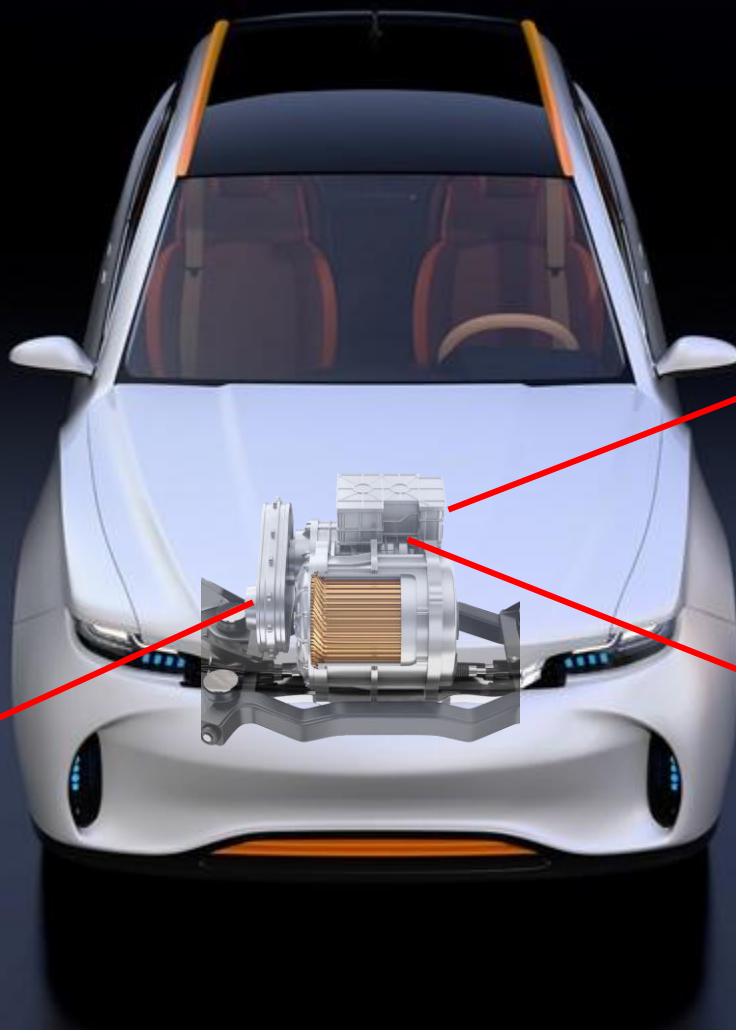
HEV車向け ダンパースプリング

ニーズに応じた応力、強度、耐久力を持った製品です。



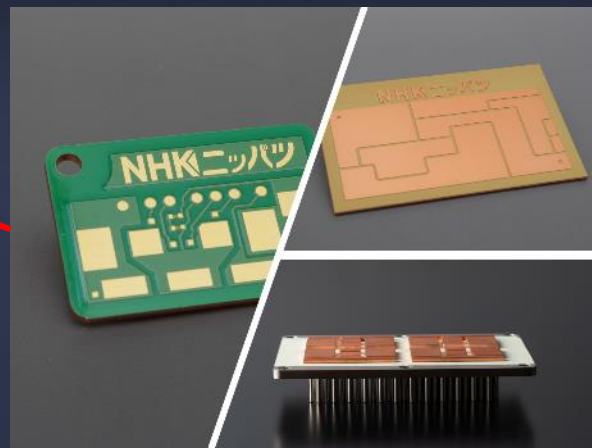
モーターコア

電動車向けの駆動モーター用コアです。
モーター回転部、固定部の磁石の鉄心となります。



HEV、EV素子の冷却用 押さえ板ばね

半導体素子を、ばねの力で放熱板に
押さえる役割を果たします。



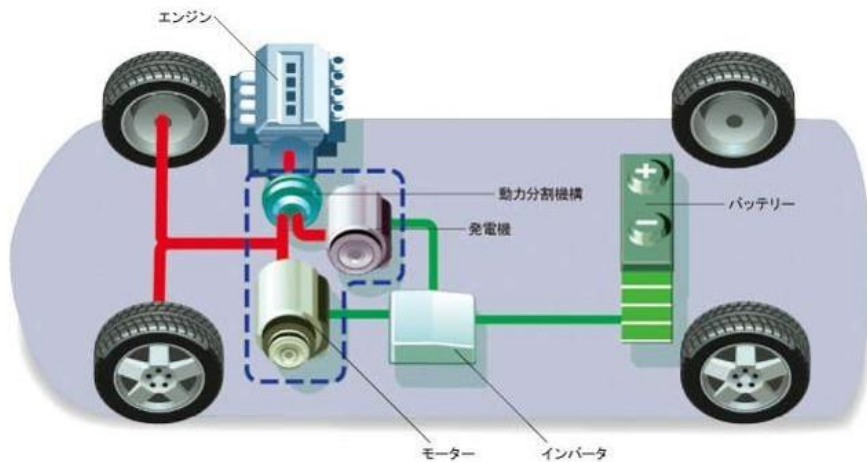
DCDCコンバーター用 金属基板

放熱部品のキーパーツとしてクルマの
電動化をサポートします。

モーターの基幹部品

モーターコアは、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HEV）のモーターの基幹部品の一つです。外側の「ステーターコア」と内側の「ローターコア」で構成される「鉄しん」部分にあたる部品です。ステーターにはコイルが巻かれ、電気が流れるとローターコアが高速回転します。この回転が、クルマの駆動力としてタイヤを回転させる力になります。一般的には、金型を使ってプレス加工した電磁鋼板を、一定枚数を積み重ね製造します。

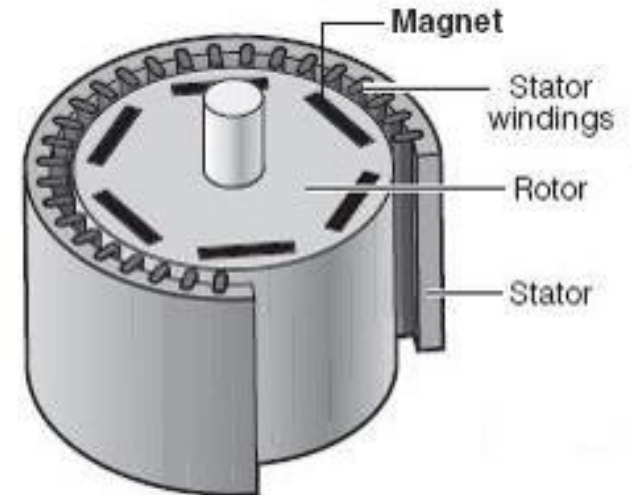
HEV



駆動用モーター



モーターコア



高い加工精度が必要！

プレス



硬く異方性のある電磁鋼板（厚さ0.3mm前後）を高速プレスで打ち抜く

積層



200枚～300枚を転積する

固定

積み重ねたものが崩れないようにカシメや溶接で固定する

検査



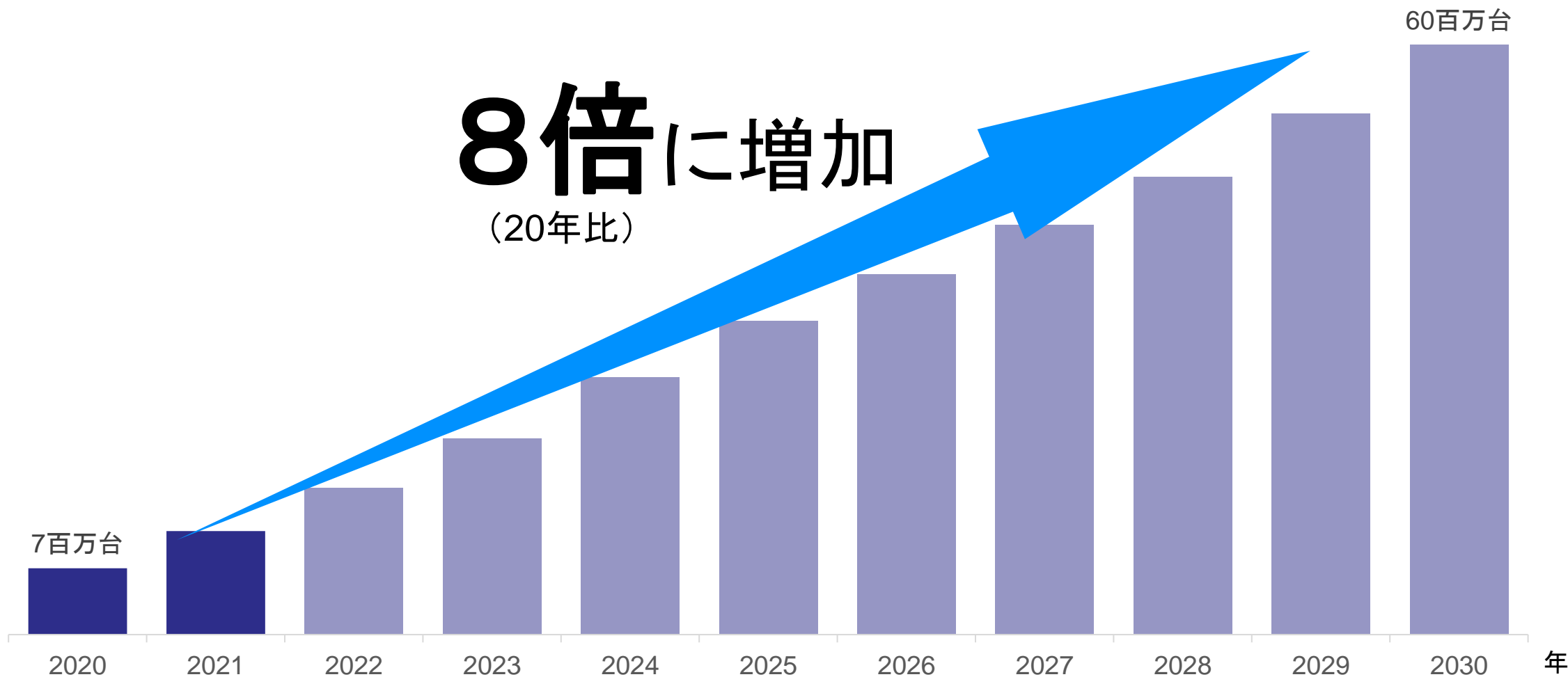
真円度、同心度、外観をミクロンレベルで検査する

梱包



製品が変形しないよう梱包する

電動車の世界生産台数の増加



高いプレス技術力とグローバル供給網

- 精密高速プレス技術を生かした生産効率の高さ
(材料歩留りが高く環境にも優しい生産技術)
- 日本、中国、メキシコの3拠点生産
- 自社で金型の作製とメンテナンスが可能
- 自動車メーカーからの信頼と実績
- 独立系による横展開、拡販力

生産能力を約3倍に強化！



- ・21年度に工場再編の為の**用地取得**
 - ・22年度に厚木工場の一部**増築**完工予定
 - ・23年度に**新生産棟竣工**予定
 - ・24年度に**新生産棟稼働**予定
- 24年度に生産能力を約**3倍**へ
(21年度比)

売上高300億円超を目指す！

300

売上高10倍に挑戦！

(20年比)

200

100

0

FY20

FY21

FY22

FY23

FY25

FY30

22.3期 決算概要

代表取締役副社長
CFO

杉山 徹

22.3期 実績

(億円)

	21.3期 実績	22.3期		実績	対前期	増 減	
		5月時点予想	11月時点予想			対5月予想	対11月予想
売上高	5,726	6,000	6,000	5,869	142	△130	△130
営業利益	104	250	250	213	108	△36	△36
営業利益率	1.8%	4.2%	4.2%	3.6%	1.8%	△0.5%	△0.5%
経常利益	145	270	270	306	161	36	36
経常利益率	2.5%	4.5%	4.5%	5.2%	2.7%	0.7%	0.7%
為替差損益	12	8	4	65	53	57	61
親会社株主に帰属する当期純利益	93	180	180	319	226	139	139
特別損益	2	—	△2	194	192	194	197
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	40.45	—	—	140.33	—	—	—
自己資本利益率 (ROE)	3.4%	—	—	10.5%	—	—	—
平均為替レート	US \$	106.2	105.0	110.0	6.7	7.9	2.9
	タイバーツ	3.4	3.3	3.3	0.0	0.1	0.1

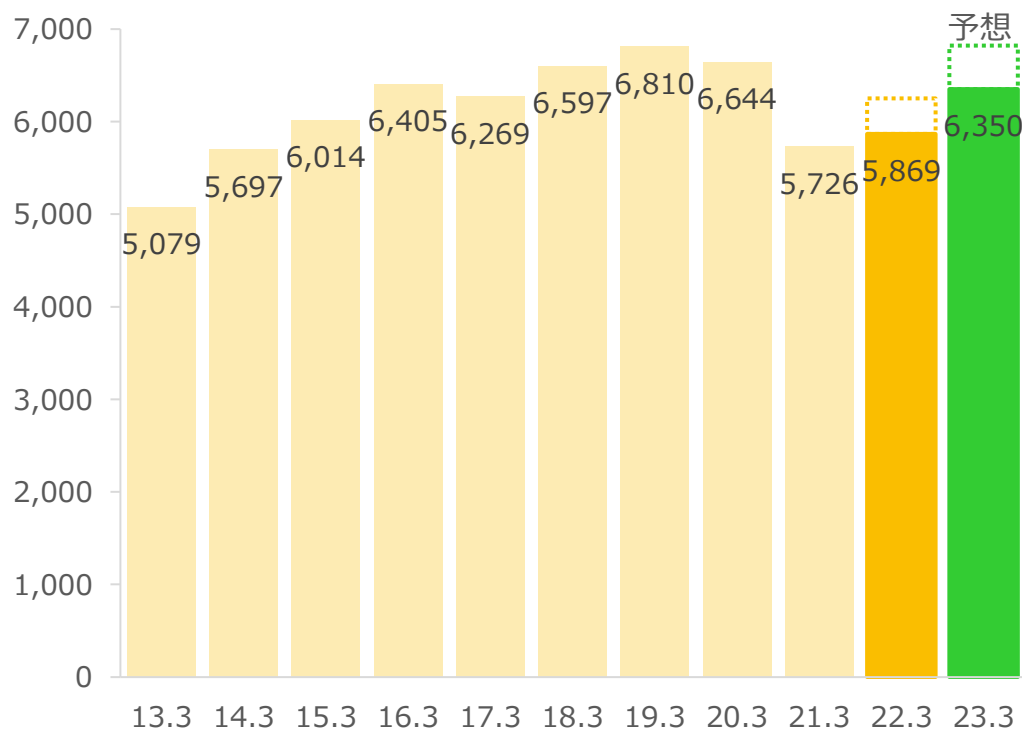
23.3期 通期予想

(億円)

	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期	
		上期	下期	通期	増減	比率
売上高	5,869	3,080	3,270	6,350	480	8.2%
営業利益	213	157	223	380	166	77.9%
営業利益率	3.6%	5.1%	6.8%	6.0%	2.3%	—
経常利益	306	167	233	400	93	30.4%
経常利益率	5.2%	5.4%	7.1%	6.3%	1.1%	—
為替差損益	65	2	0	2	△62	△96.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	319	100	140	240	△79	△25.0%
特別損益	194	—	—	—	△194	—
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	140.33	—	—	105.25	—	—
自己資本利益率 (ROE)	10.5%	—	—	7.3%	—	—
平均為替レート						
US \$	112.9	—	—	118.0	5.1	4.6%
タイバーツ	3.4	—	—	3.5	0.1	1.9%

売上高

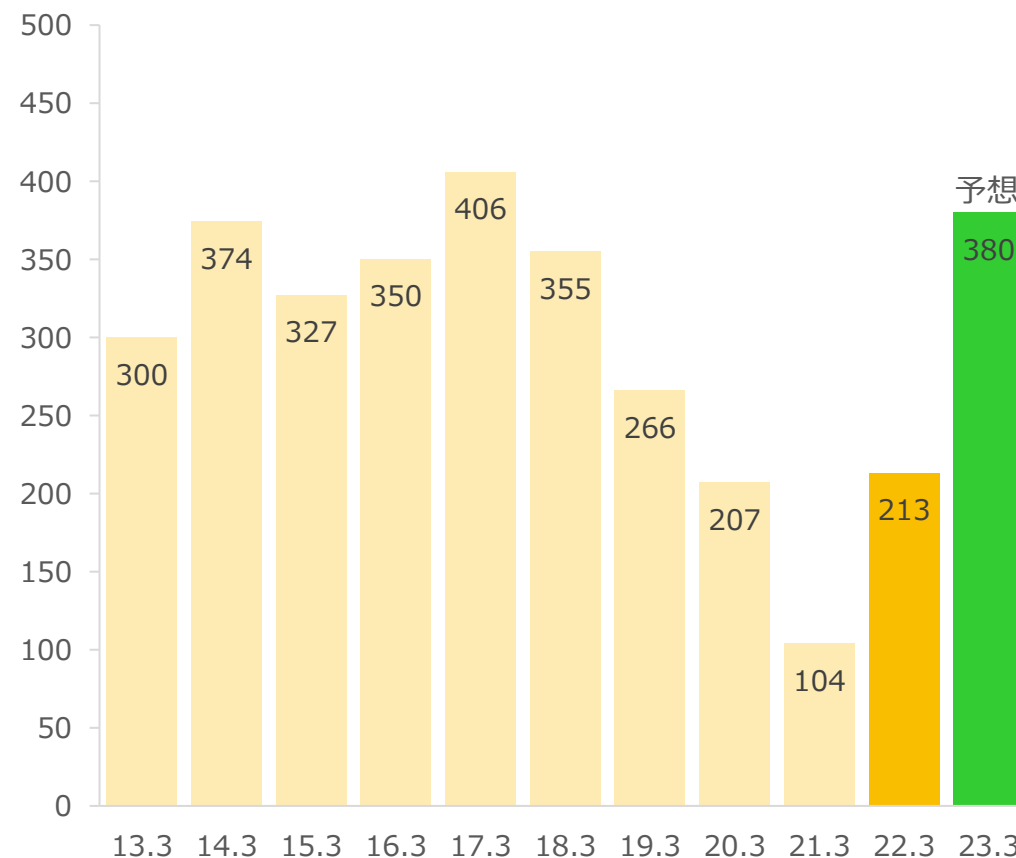
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

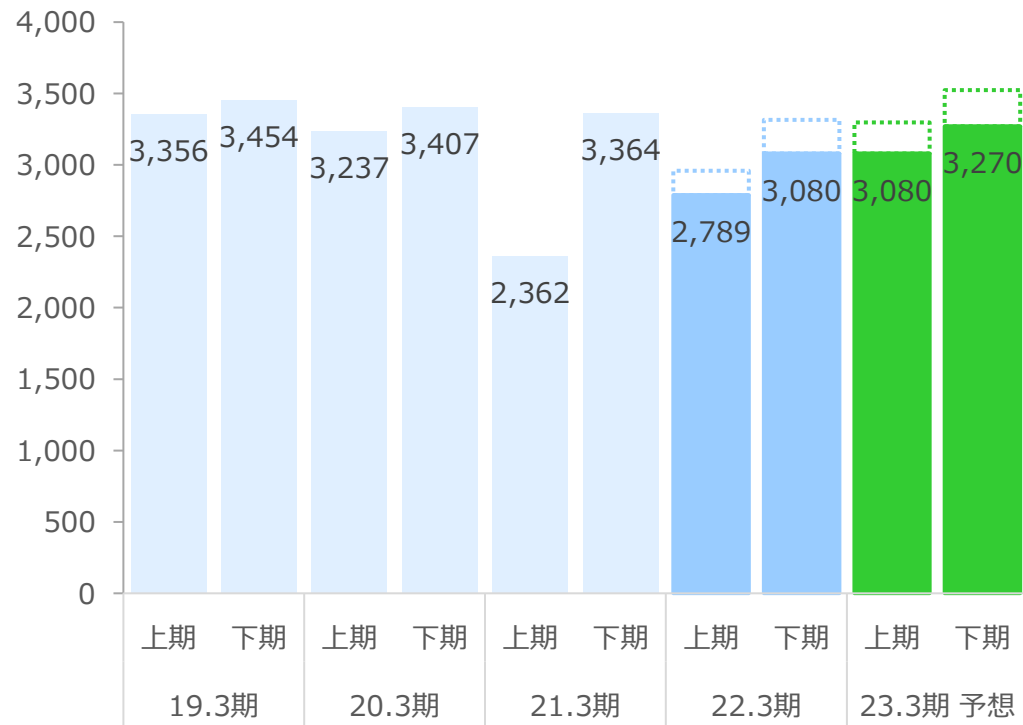
(億円)



業績推移（半期ベース）

売上高

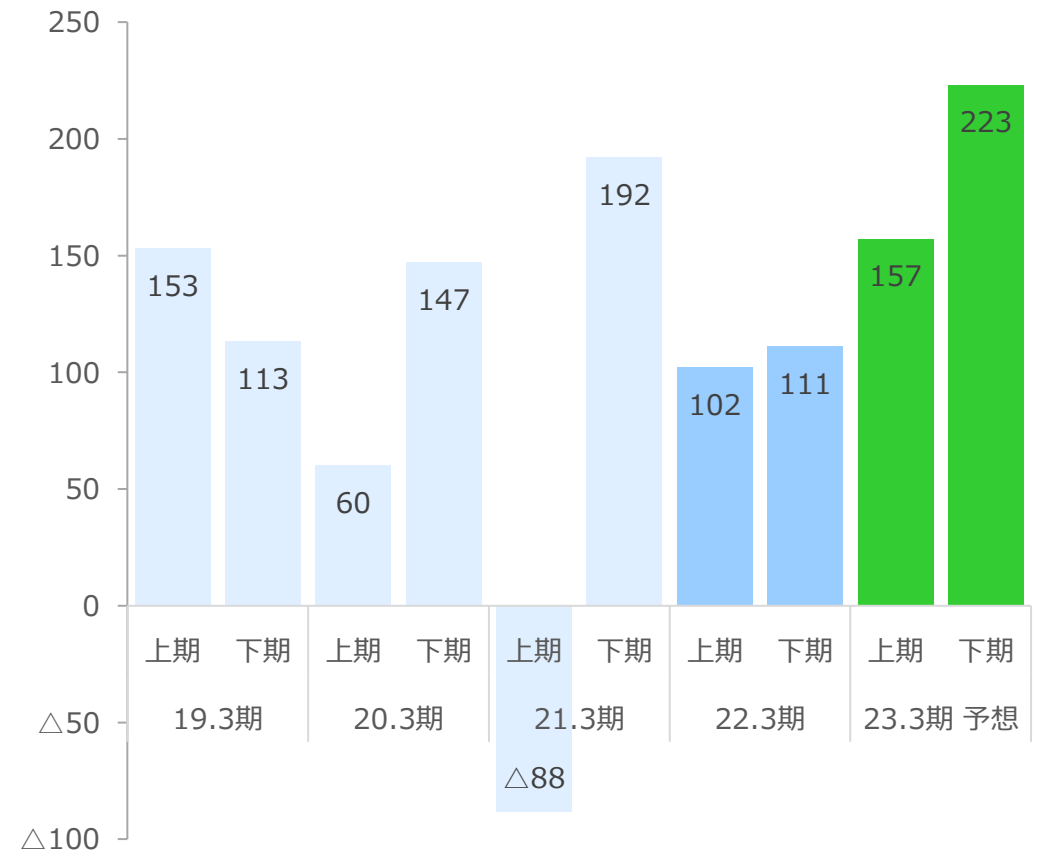
(億円)



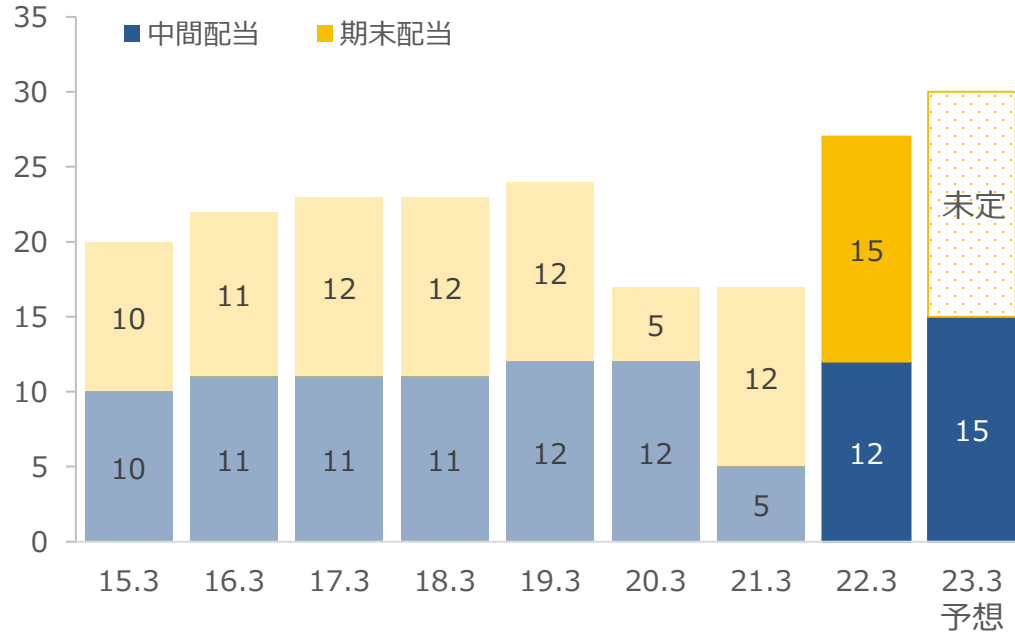
『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

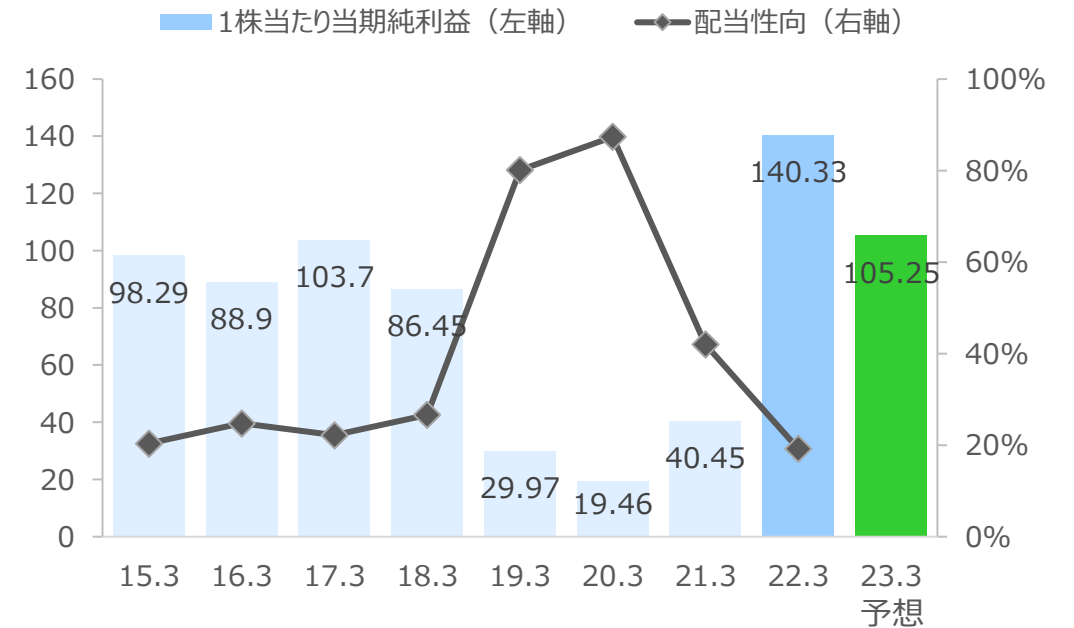
(億円)



1株当たり配当額



1株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
22.3期 実績	12.0円	15.0円	27.0円	19.2%
23.3期 予想	15.0円	-	-	-

▽23.3期（22年度）期末の配当金額については未定であります。

22.3期 決算詳細
23.3期 業績予想

常務執行役員
経理部部長

池尻 修

22.3期 決算詳細

22.3期 実績

(億円)

	21.3期 実績	22.3期		実績	対前期	増 減		
		5月時点予想	11月時点予想			対5月予想	対11月予想	
売上高	5,726	6,000	6,000	5,869	142	△130	△130	
営業利益	104	250	250	213	108	△36	△36	
営業利益率	1.8%	4.2%	4.2%	3.6%	1.8%	△0.5%	△0.5%	
経常利益	145	270	270	306	161	36	36	
経常利益率	2.5%	4.5%	4.5%	5.2%	2.7%	0.7%	0.7%	
為替差損益	12	8	4	65	53	57	61	
親会社株主に帰属する当期純利益	93	180	180	319	226	139	139	
特別損益	2	—	△2	194	192	194	197	
平均為替レート	US \$	106.2	105.0	110.0	112.9	6.7	7.9	2.9
	タイバーツ	3.4	3.3	3.3	3.4	0.0	0.1	0.1
期末為替レート	US \$	110.7	105.0	110.0	122.4	11.7	17.4	12.4
	タイバーツ	3.4	3.3	3.3	3.4	△0.0	0.1	0.1

特別利益・特別損失

特別利益 内訳

(億円)

科目	内容	金額	
特別利益	固定資産売却益	不動産の売却	266
	投資有価証券売却益	株式の売却益	2
	計		269
特別損失	減損損失	生産設備、遊休不動産	71
	投資有価証券売却損	株式の売却損	0.2
	関係会社株式評価損	海外子会社株式評価損	0.3
	関係会社出資金売却損	海外子会社の保有持分売却	2
	計		74

減損損失 内訳

(億円)

用途	拠点	対象	金額
生産設備	当社	建物、機械装置 ほか	34
	国内子会社	機械装置、建設仮勘定 ほか	6
	アメリカ子会社	機械装置 ほか	12
	ハンガリー子会社	建物、機械装置、土地 ほか	17
遊休不動産	国内子会社	土地	0.1
計			71

セグメント別の売上高・営業利益の状況

		(億円)					
		21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減	
			11月時点予想	実績			
■ 懸架ばね	売上高	1,020	1,180	1,129	109	△50	
	営業利益	△46	△30	△43	3	△13	
	営業利益率	△4.6%	△2.5%	△3.9%	0.7%	△1.3%	
■ シート	売上高	2,425	2,190	2,084	△340	△105	
	営業利益	19	20	△28	△48	△48	
	営業利益率	0.8%	0.9%	△1.4%	△2.2%	△2.3%	
■ 精密部品	売上高	1,385	1,630	1,622	237	△7	
	営業利益	68	165	178	109	13	
	営業利益率	4.9%	10.1%	11.0%	6.0%	0.9%	
■ 産業機器ほか	売上高	895	1,000	1,031	136	31	
	営業利益	63	95	107	44	12	
	営業利益率	7.1%	9.5%	10.4%	3.3%	0.9%	
合計	売上高	5,726	6,000	5,869	142	△130	
	営業利益	104	250	213	108	△36	
	営業利益率	1.8%	4.2%	3.6%	1.8%	△0.5%	

▽対前期実績

自動車関連事業は、新型コロナウイルス感染拡大影響からの持ち直しが見られたものの、シート事業は、半導体供給不足等による客先の減産影響を大きく受けた。

情報通信関連事業は、HDD用サスペンションや半導体プロセス部品の受注が好調に推移し、増収増益となった。

▽対11月時点予想

自動車関連事業は、半導体供給不足等による客先の減産影響を想定以上に受け、減収減益となった。

情報通信関連事業は、HDD用サスペンションの数量増加に加え、円安効果による損益の押上げがあった。

地域別の売上高・営業利益の状況

		(億円)					
		21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減	
			11月時点予想	実績			
●日本	売上高	3,431	3,450	3,413	△17	△36	
	営業利益	100	188	201	101	13	
	営業利益率	2.9%	5.4%	5.9%	3.0%	0.5%	
●アジア	売上高	1,489	1,699	1,665	175	△33	
	営業利益	64	117	102	37	△14	
	営業利益率	4.3%	6.9%	6.1%	1.8%	△0.8%	
●米欧ほか	売上高	805	851	790	△15	△60	
	営業利益	△59	△55	△90	△30	△35	
	営業利益率	△7.4%	△6.5%	△11.4%	△4.0%	△5.0%	
合計	売上高	5,726	6,000	5,869	142	△130	
	営業利益	104	250	213	108	△36	
	営業利益率	1.8%	4.2%	3.6%	1.8%	△0.5%	

▽対前期実績

自動車関連事業は、全地域で新型コロナウイルス感染拡大影響からの持ち直しが見られたものの、日本・米欧ほか地域においては、シート事業を中心に半導体供給不足等による客先の減産影響を大きく受け、損益が悪化した。

一方で、日本・アジア地域においては、情報通信関連事業の受注好調による損益の押上げがあった。

▽対11月時点予想

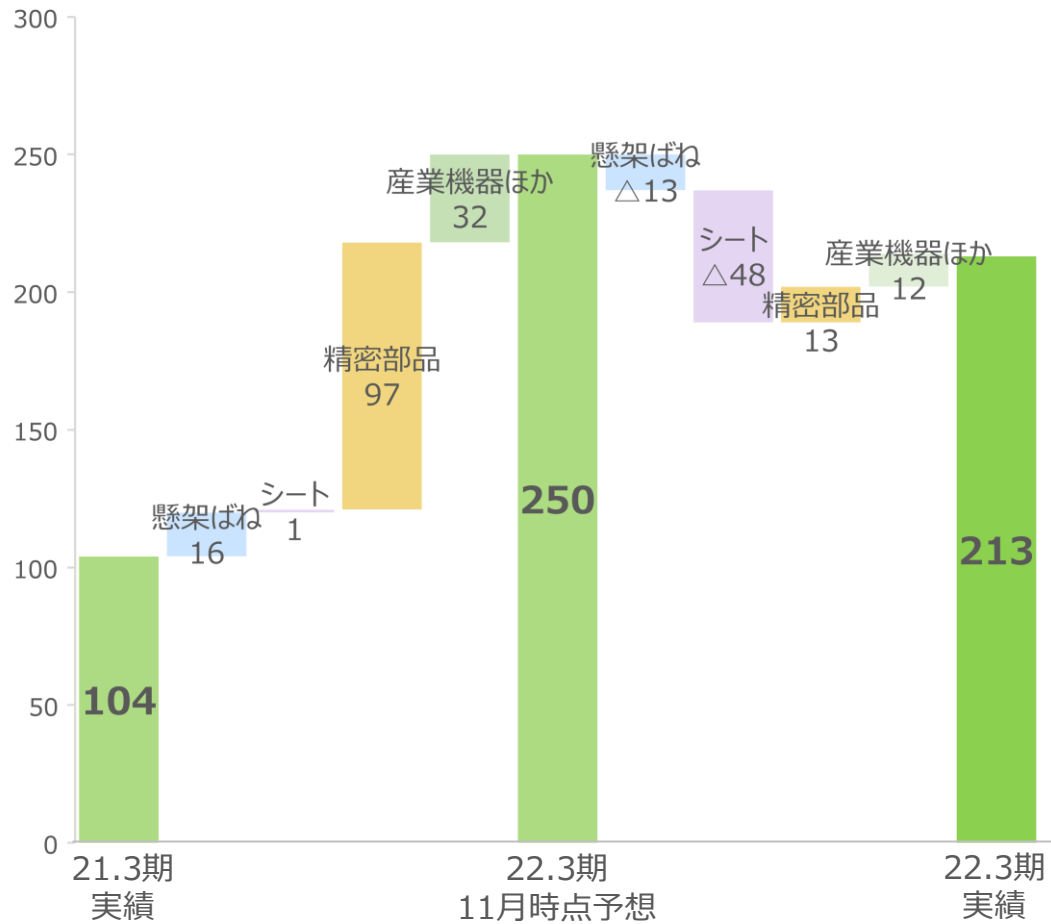
自動車関連事業は、半導体供給不足等による客先の減産影響に加え、原材料価格や物流コストの高騰により、全地域で損益が悪化した。

一方で、日本においては、HDD用サスペンションの数量増加に加え、円安効果により損益が改善した。

営業利益のセグメント別推移

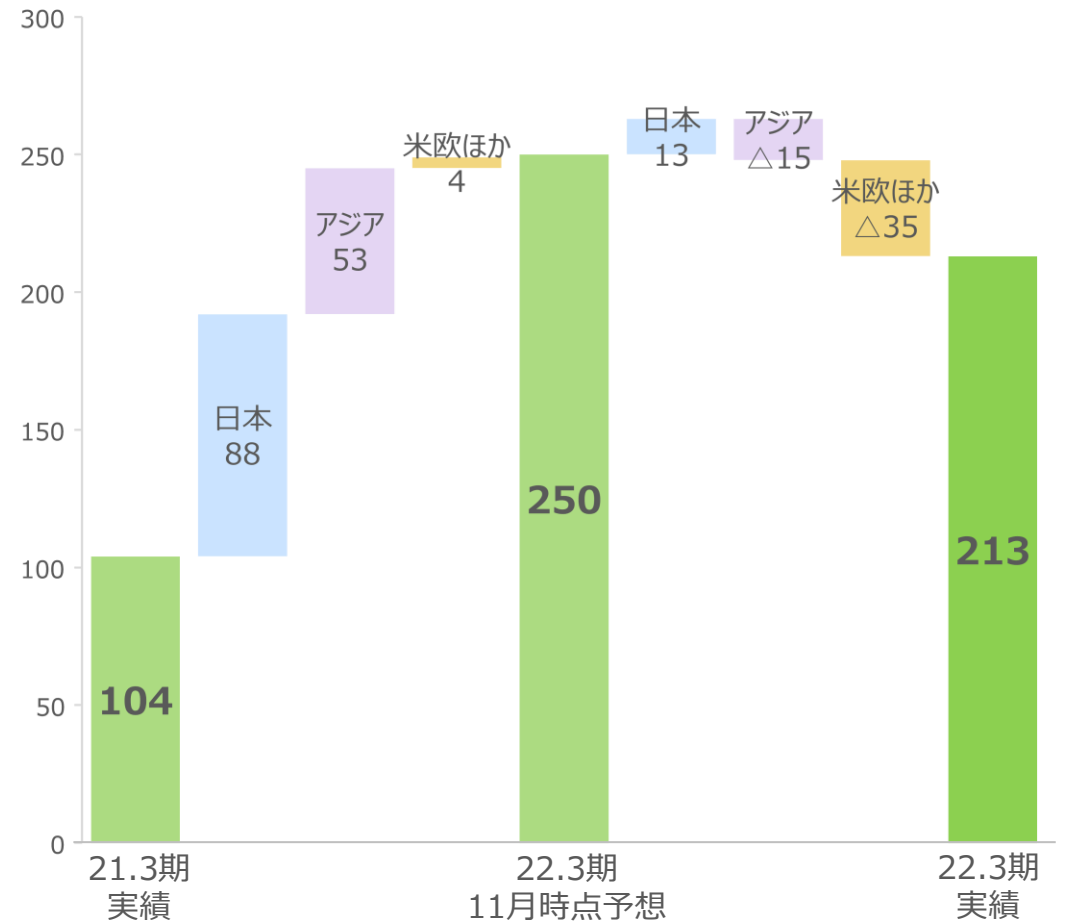
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

(億円)



セグメント分析：懸架ばね

	21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	1,020	1,180	1,129	109	△50
営業利益	△46	△30	△43	3	△13
営業利益率	△4.6%	△2.5%	△3.9%	0.7%	△1.3%

(億円)

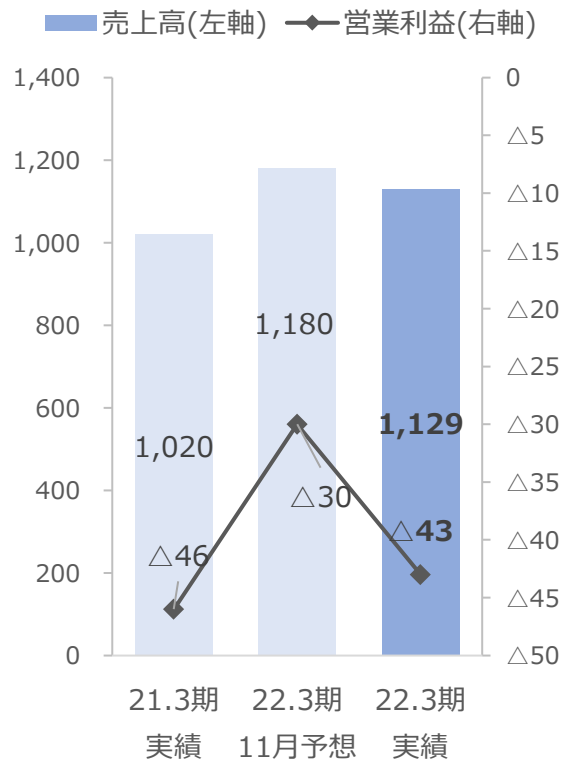
▽対前期実績

新型コロナウイルス感染拡大影響からの持ち直しにより増収となった一方で、半導体供給不足等による客先の減産影響に加え、原材料価格や物流コスト高騰の影響を受け、営業利益は小幅な改善にとどまった。

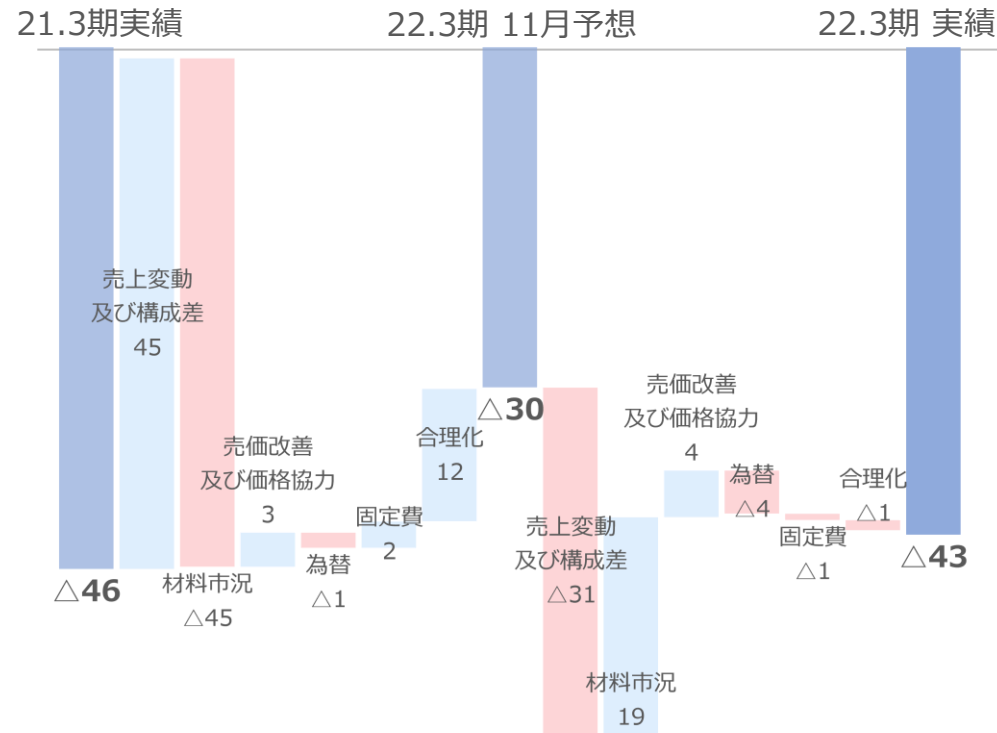
▽対11月時点予想

日本・米国を中心に、半導体供給不足等による客先の減産影響を想定以上に大きく受け、減収減益となった。

業績比較



営業利益の変動要因分析



セグメント分析：シート

	21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	2,425	2,190	2,084	△340	△105
営業利益	19	20	△28	△48	△48
営業利益率	0.8%	0.9%	△1.4%	△2.2%	△2.3%

(億円)

▽対前期実績

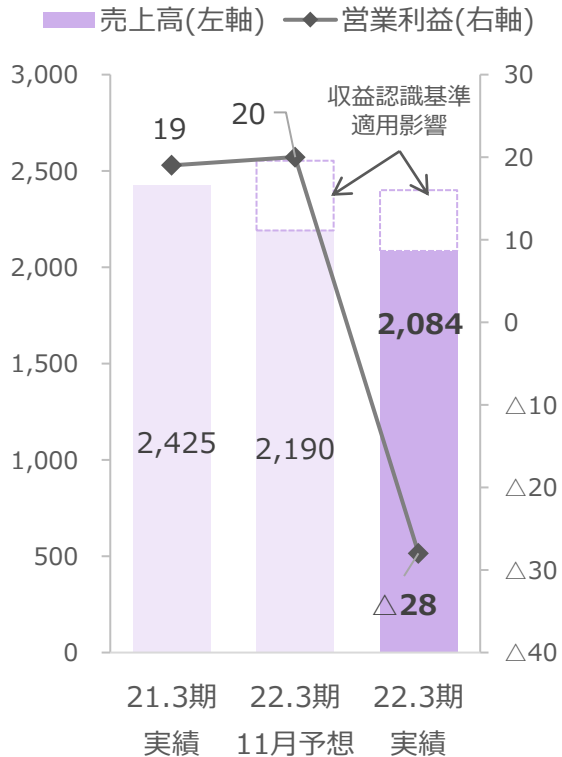
新型コロナウイルス感染拡大影響からの持ち直しは見られたものの、半導体供給不足等による客先の減産影響をより大きく受け、減収減益となった。

売上高の減少については、収益認識基準の適用による影響（△316億円）が含まれる。

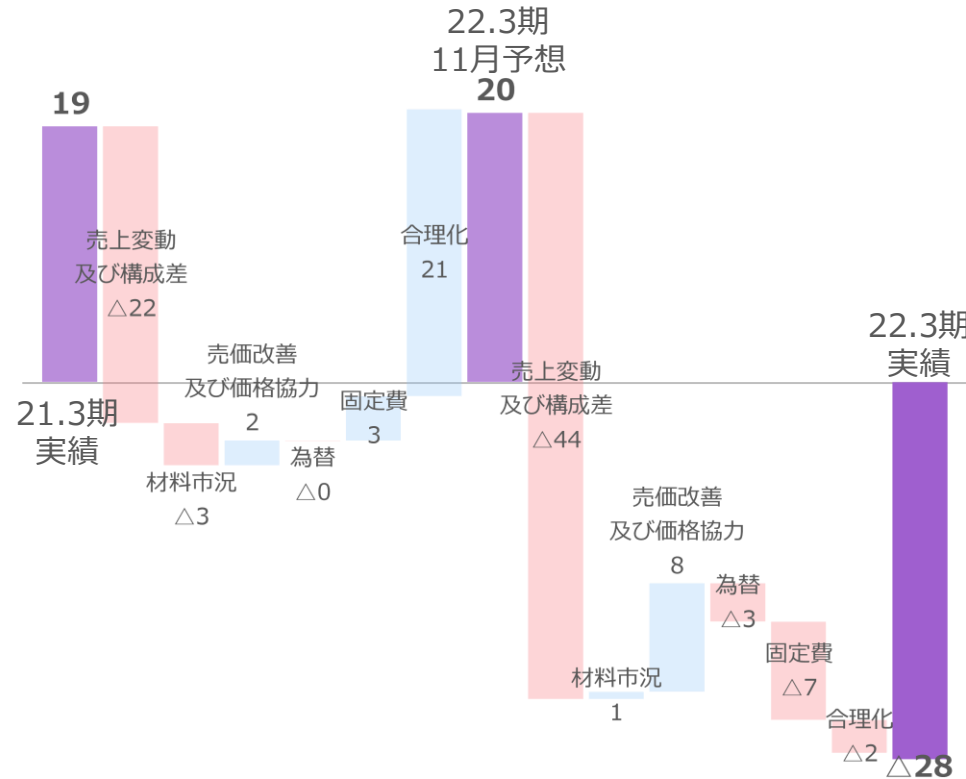
▽対11月時点予想

日本・米国を中心に、半導体供給不足等による客先の減産影響を想定以上に大きく受け、減収減益となった。

業績比較



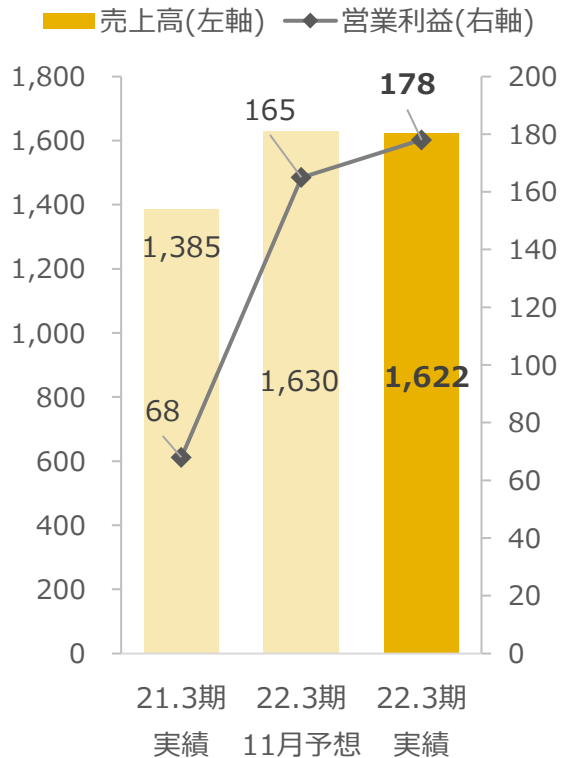
営業利益の変動要因分析



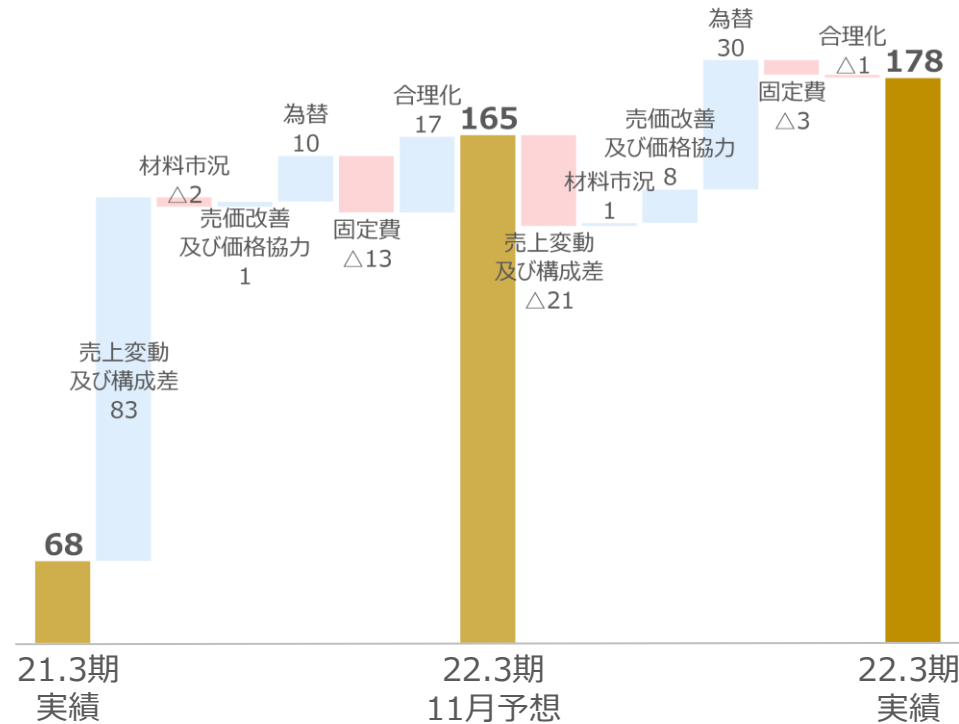
	21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	1,385	1,630	1,622	237	△7
営業利益	68	165	178	109	13
営業利益率	4.9%	10.1%	11.0%	6.0%	0.9%

(億円)

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連事業は、半導体供給不足等による損益の押下げ影響はあるものの、新型コロナウイルス感染拡大影響から持ち直したことや、HDD関連部品の需要がグローバルで好調に推移したことで、増収増益となった。

▽対11月時点予想

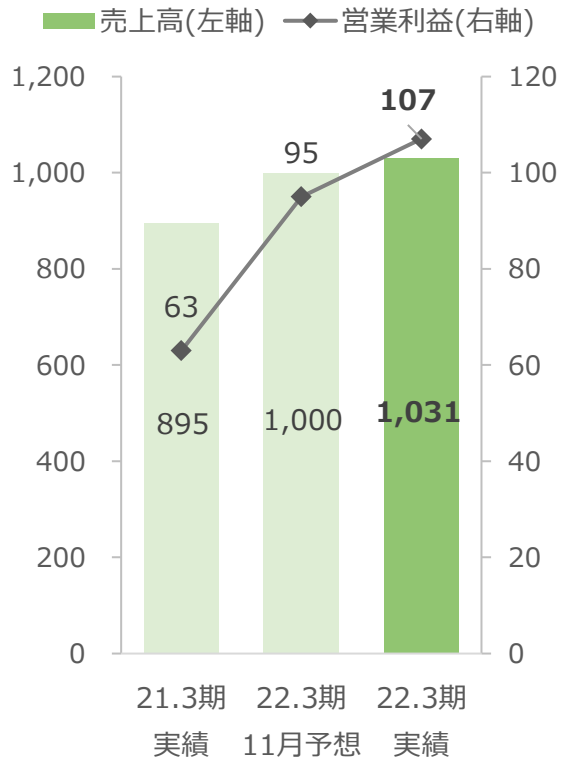
自動車関連事業は、日本・米国を中心に半導体供給不足等による客先の減産影響を想定以上に大きく受けた一方で、HDD関連部品の受注増加及び円安効果により、増収増益となった。

セグメント分析：産業機器ほか

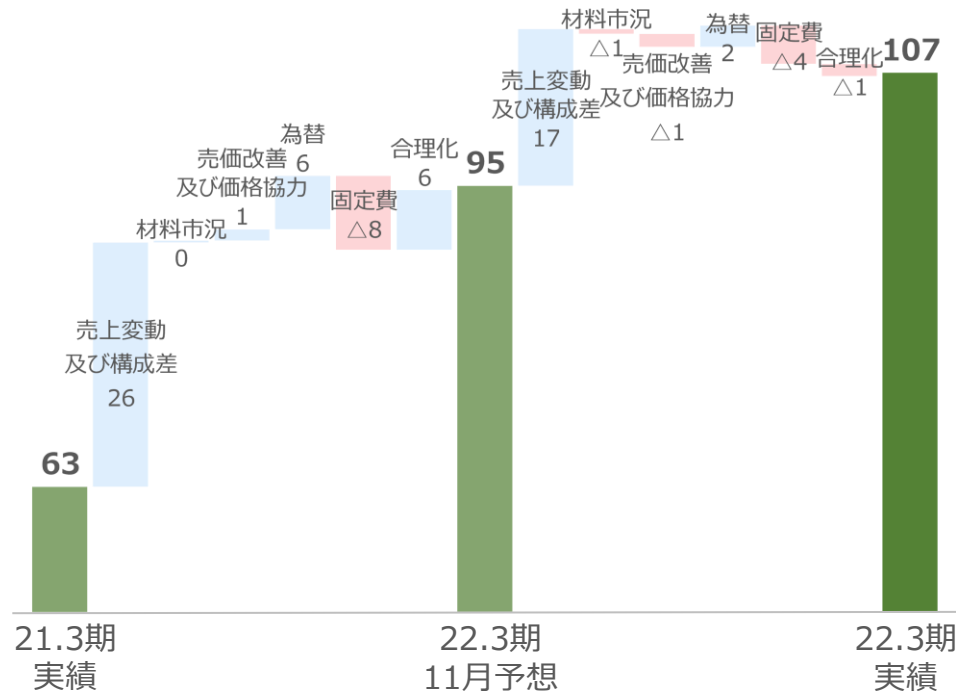
(億円)

	21.3期 実績	22.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	895	1,000	1,031	136	31
営業利益	63	95	107	44	12
営業利益率	7.1%	9.5%	10.4%	3.3%	0.9%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

半導体プロセス部品の受注が好調に推移したことに加え、ゴルフシャフト、マリンプロダクト等の受注増加、及び自動車関連事業の新型コロナウイルス感染拡大影響からの持ち直しから、増収増益となった。

▽対11月時点予想

ゴルフシャフト、マリンプロダクト、立体駐車装置などの各事業が堅調に推移し、増収増益となった。

23.3期 業績予想

23.3期 業績予想

(億円)

	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期	
		上期	下期	通期	増減	比率
売上高	5,869	3,080	3,270	6,350	480	8.2%
営業利益	213	157	223	380	166	77.9%
営業利益率	3.6%	5.1%	6.8%	6.0%	2.3%	—
経常利益	306	167	233	400	93	30.4%
経常利益率	5.2%	5.4%	7.1%	6.3%	1.1%	—
為替差損益	65	2	0	2	△62	△96.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	319	100	140	240	△79	△25.0%
特別損益	194	—	—	—	△194	—
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	140.33	—	—	105.25	—	—
自己資本利益率 (ROE)	10.5%	—	—	7.3%	—	—
平均為替レート						
US \$	112.9	—	—	118.0	5.1	4.6%
タイバーツ	3.4	—	—	3.5	0.1	1.9%

セグメント別売上高・営業利益の予想

(億円)

		22.3期 実績	23.3期 予想			対前期	
			上期	下期	通期	増減	比率
■ 懸架ばね	売上高	1,129	590	610	1,200	70	6.2%
	営業利益	△43	△1	11	10	53	-
	営業利益率	△3.9%	△0.2%	1.8%	0.8%	4.7%	-
■ シート	売上高	2,084	1,100	1,190	2,290	205	9.9%
	営業利益	△28	20	37	57	85	-
	営業利益率	△1.4%	1.8%	3.1%	2.5%	3.9%	-
■ 精密部品	売上高	1,622	840	880	1,720	97	6.0%
	営業利益	178	85	103	188	9	5.6%
	営業利益率	11.0%	10.1%	11.7%	10.9%	△0.0%	-
■ 産業機器ほか	売上高	1,031	550	590	1,140	108	10.5%
	営業利益	107	53	72	125	17	16.1%
	営業利益率	10.4%	9.6%	12.2%	11.0%	0.5%	-
合計	売上高	5,869	3,080	3,270	6,350	480	8.2%
	営業利益	213	157	223	380	166	77.9%
	営業利益率	3.6%	5.1%	6.8%	6.0%	2.3%	-

▽対22.3期実績

■ 懸架ばね・シート

自動車生産台数の回復による受注増加を見込む。

■ 精密部品

自動車関連事業の数量回復に加え、情報通信関連事業のさらなる受注増加により、増収増益の見通し。

■ 産業機器ほか

半導体プロセス部品のさらなる受注増加により、増収増益の見通し。

地域別売上高・営業利益の予想

(億円)

		22.3期 実績	23.3期 予想			対前期	
			上期	下期	通期	増減	比率
●日本	売上高	3,413	1,780	1,850	3,630	216	6.3%
	営業利益	201	112	150	262	60	29.7%
	営業利益率	5.9%	6.3%	8.1%	7.2%	1.3%	-
●アジア	売上高	1,665	820	870	1,690	24	1.5%
	営業利益	102	60	70	130	27	27.4%
	営業利益率	6.1%	7.3%	8.0%	7.7%	1.6%	-
●米欧ほか	売上高	790	480	550	1,030	239	30.4%
	営業利益	△90	△15	3	△12	78	-
	営業利益率	△11.4%	△3.1%	0.5%	△1.2%	10.3%	-
合計	売上高	5,869	3,080	3,270	6,350	480	8.2%
	営業利益	213	157	223	380	166	77.9%
	営業利益率	3.6%	5.1%	6.8%	6.0%	2.3%	-

▽対22.3期実績

●日本

自動車関連事業の数量回復に加え、情報通信関連事業のさらなる受注増加を見込み、増収増益の見通し。

●アジア

タイを中心に自動車関連部品及びHDD関連部品の受注増加を見込み、増収増益の見通し。

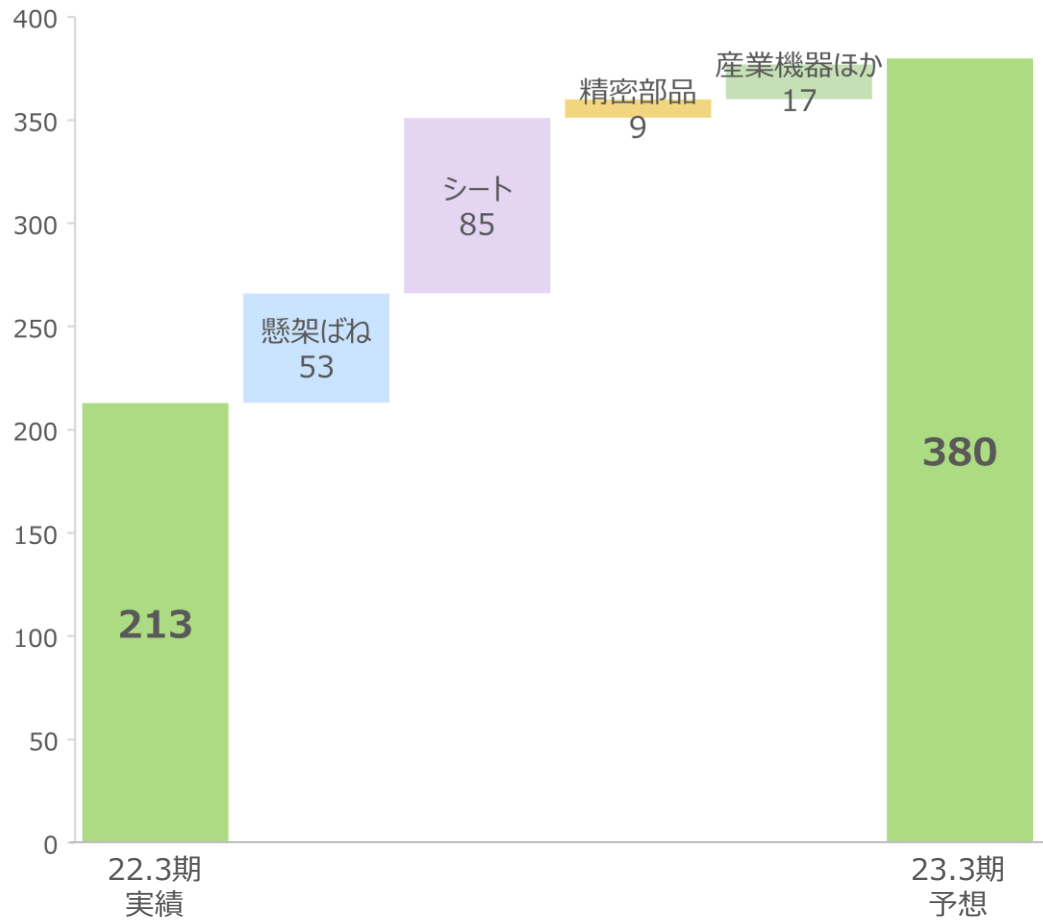
●米欧ほか

自動車生産台数の回復による受注増を見込む。

営業利益のセグメント別推移

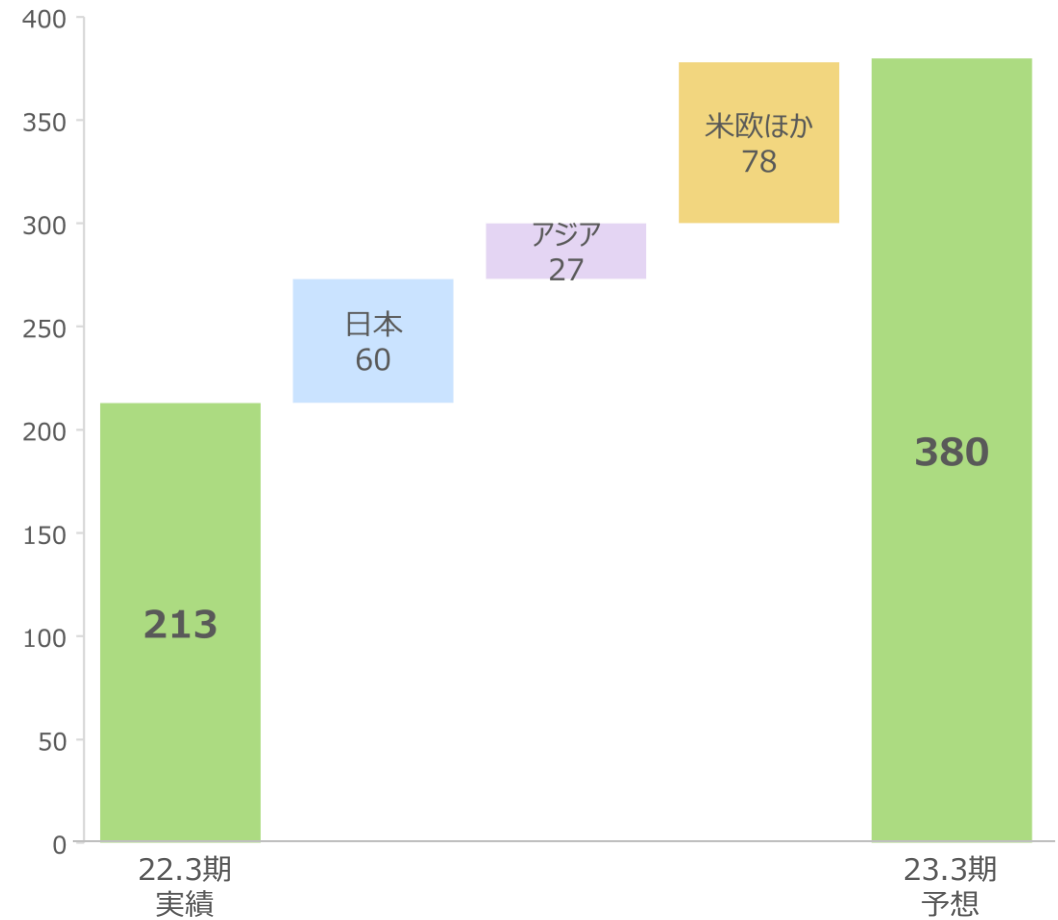
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

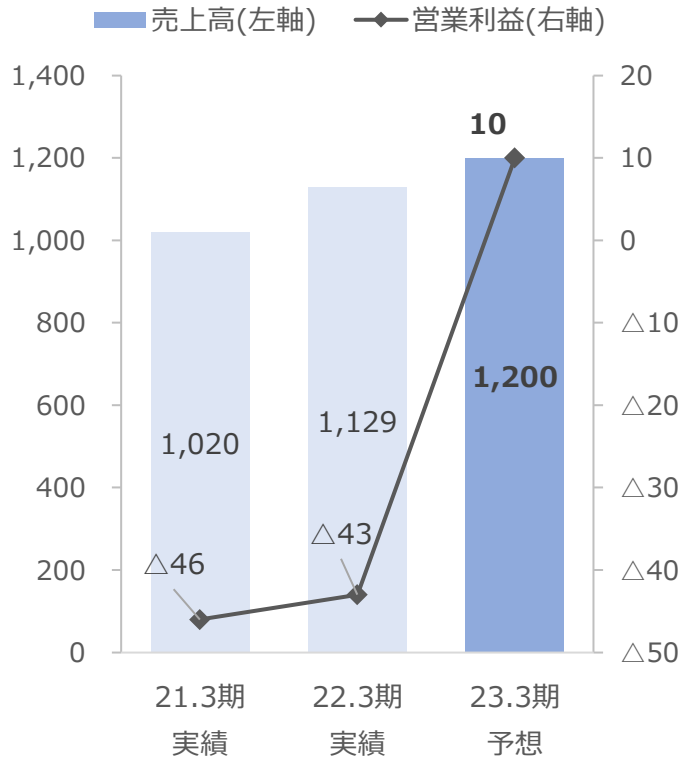
(億円)



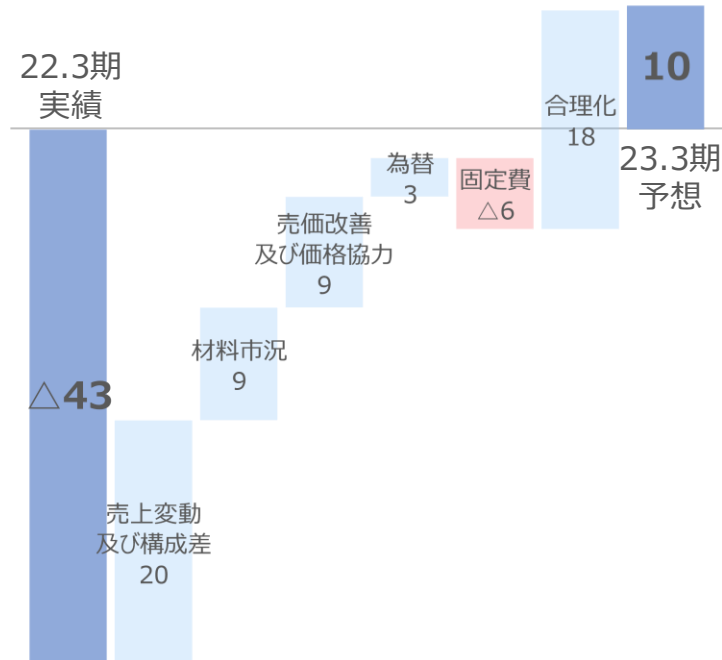
セグメント別分析：懸架ばね

	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	1,129	590	610	1,200	70
営業利益	△43	△1	11	10	53
営業利益率	△3.9%	△0.2%	1.8%	0.8%	4.7%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対22.3期実績

半導体供給不足等による客先の減産影響については解消時期が不透明であるものの、自動車生産台数は徐々に回復に向かうと想定。

米欧子会社の収支改善を柱に営業黒字転換を目指す。

セグメント別分析：シート

	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	2,084	1,100	1,190	2,290	205
営業利益	△28	20	37	57	85
営業利益率	△1.4%	1.8%	3.1%	2.5%	3.9%

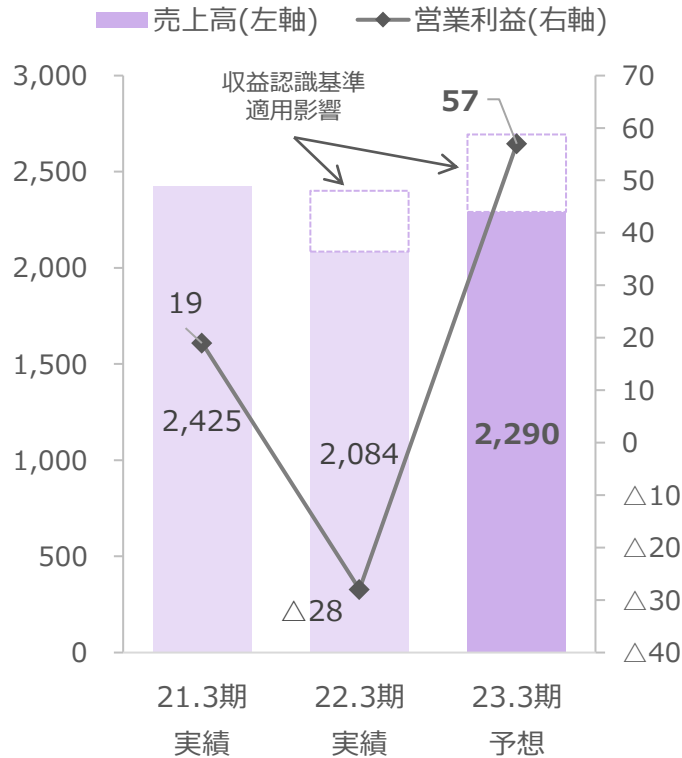
(億円)

▽対22.3期実績

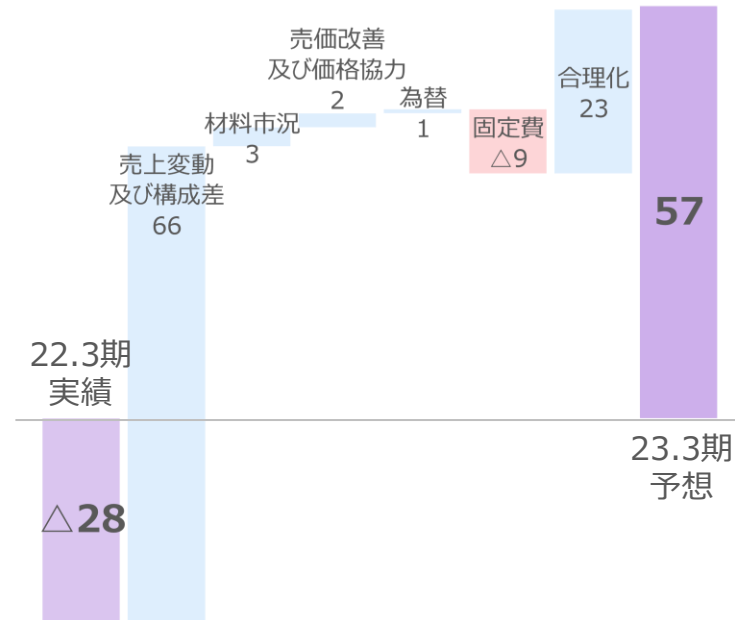
半導体供給不足等による客先の減産影響については解消時期が不透明であるものの、自動車生産台数は徐々に回復に向かうと想定。

23.3期は、重要車型の立上げが多く、準備に万全を期す。

業績推移



営業利益の変動要因分析



	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	1,622	840	880	1,720	97
営業利益	178	85	103	188	9
営業利益率	11.0%	10.1%	11.7%	10.9%	△0.0%

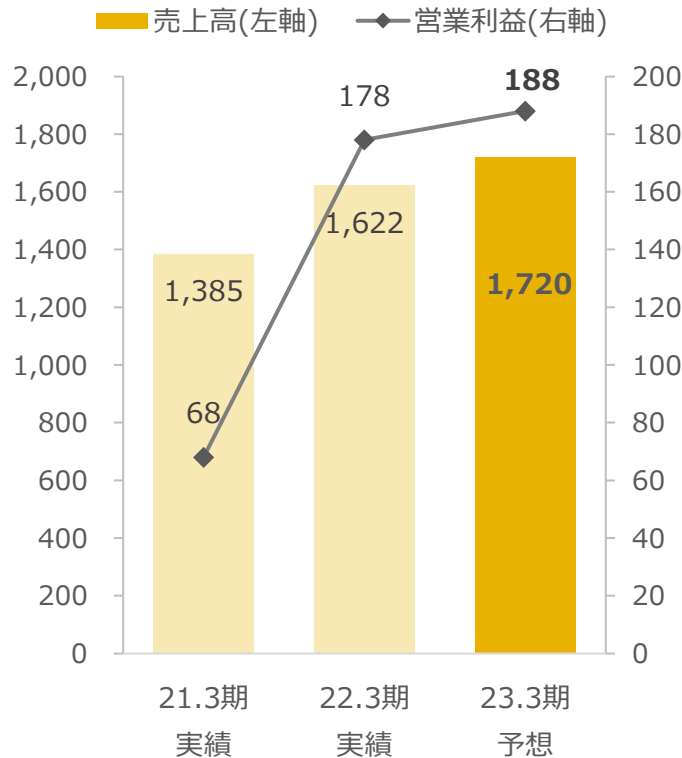
(億円)

▽対22.3期実績

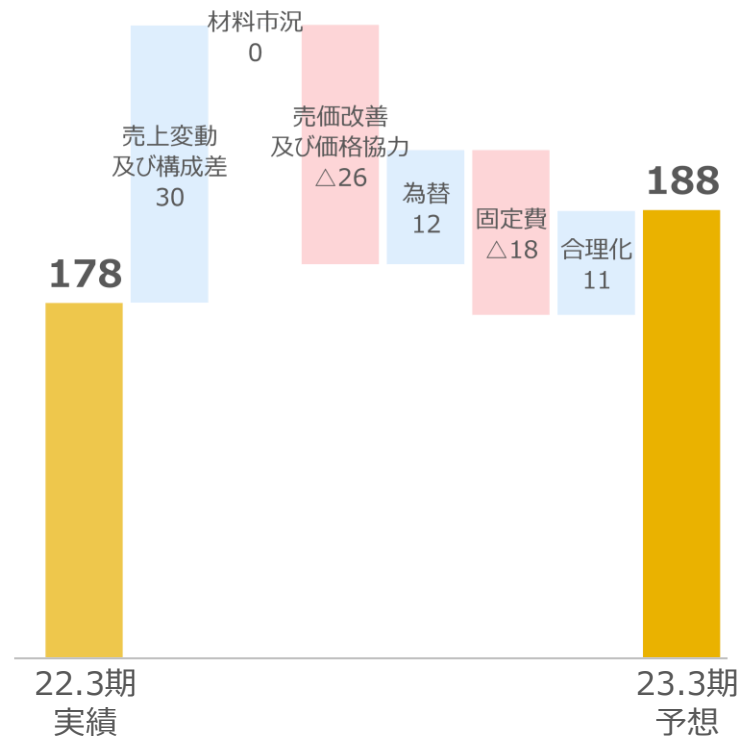
半導体供給不足等による客先の減産影響については解消時期が不透明であるものの、自動車生産台数は徐々に回復に向かうと想定。

情報通信関連事業は、日本においては品種構成の変化などにより若干の損益悪化を見込むものの、HDD用サスペンションの需要は引き続き好調に推移する見込み。

業績推移



営業利益の変動要因分析



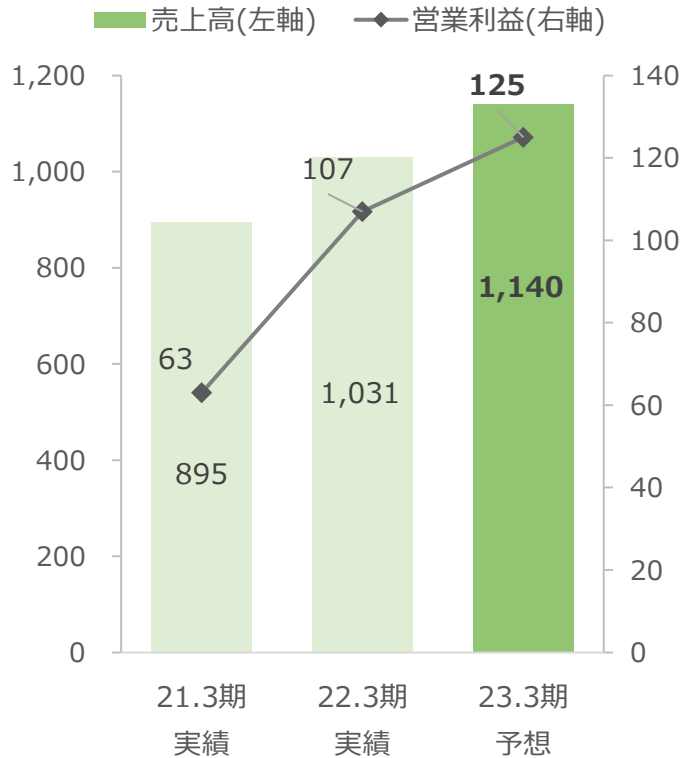
セグメント別分析：産業機器ほか

	22.3期 実績	23.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	1,031	550	590	1,140	108
営業利益	107	53	72	125	17
営業利益率	10.4%	9.6%	12.2%	11.0%	0.5%

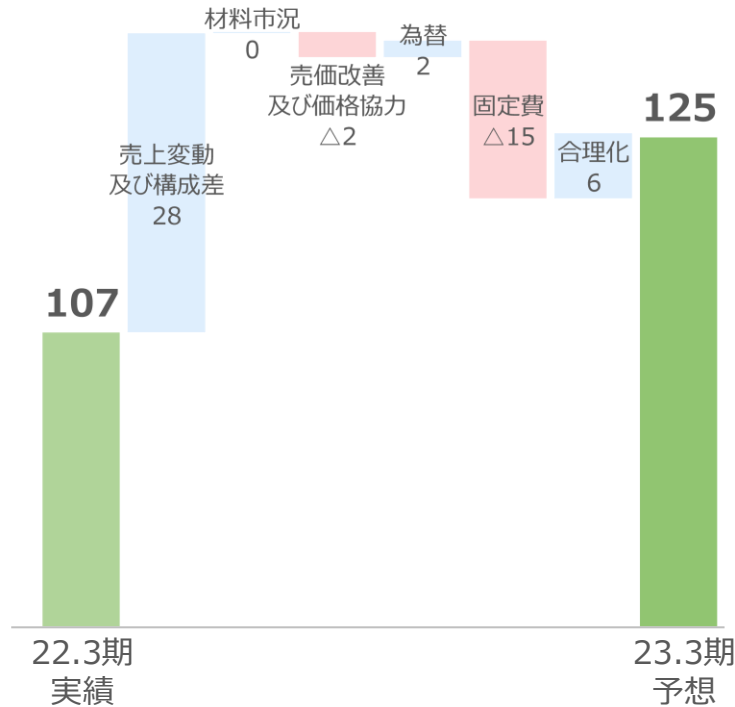
▽対22.3期実績

半導体プロセス部品のさらなる受注増加が全体を牽引し、増収増益の見通し。さらに、金属基板の受注増加や、自動車関連事業の回復が損益の押し上げに貢献する見込み。

業績推移

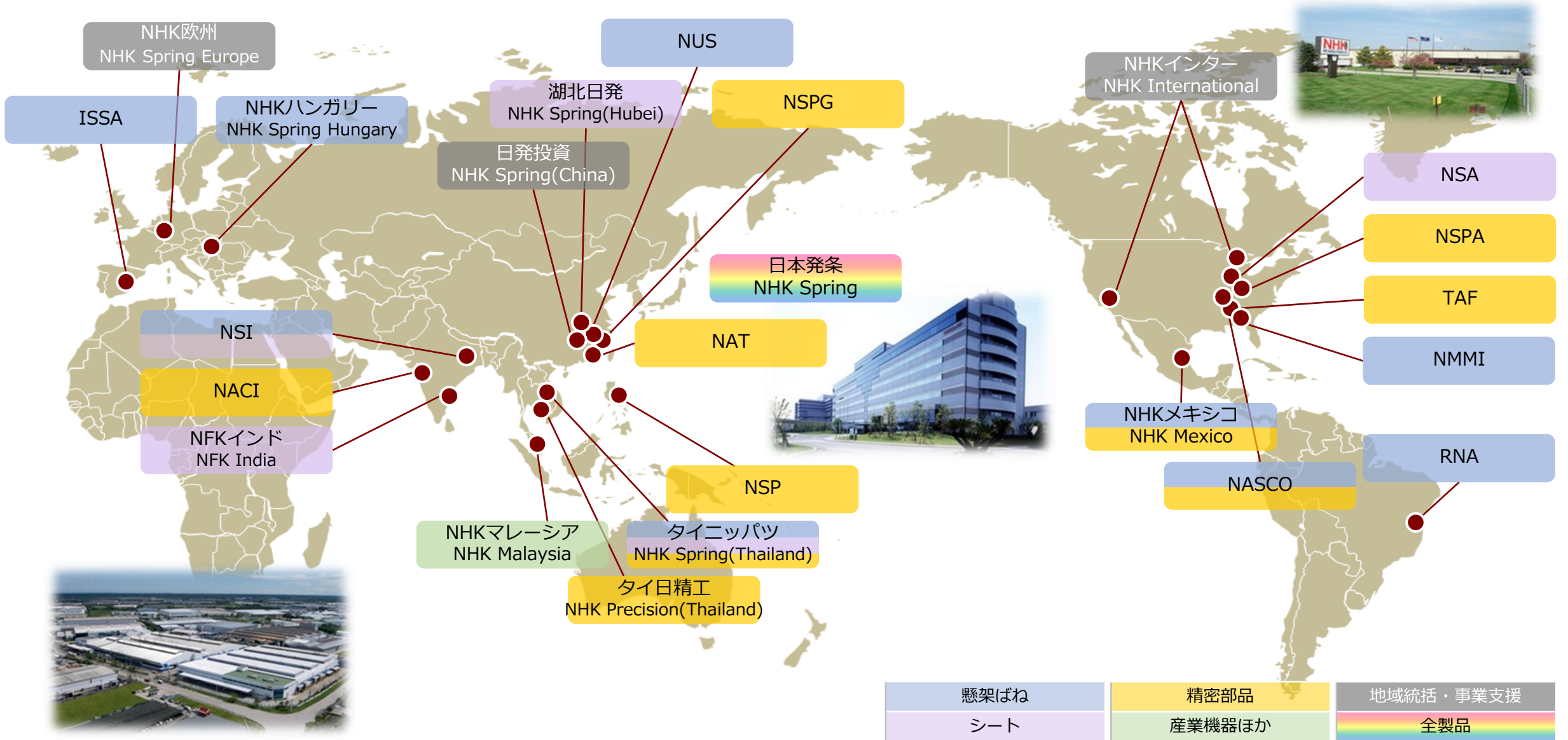


営業利益の変動要因分析



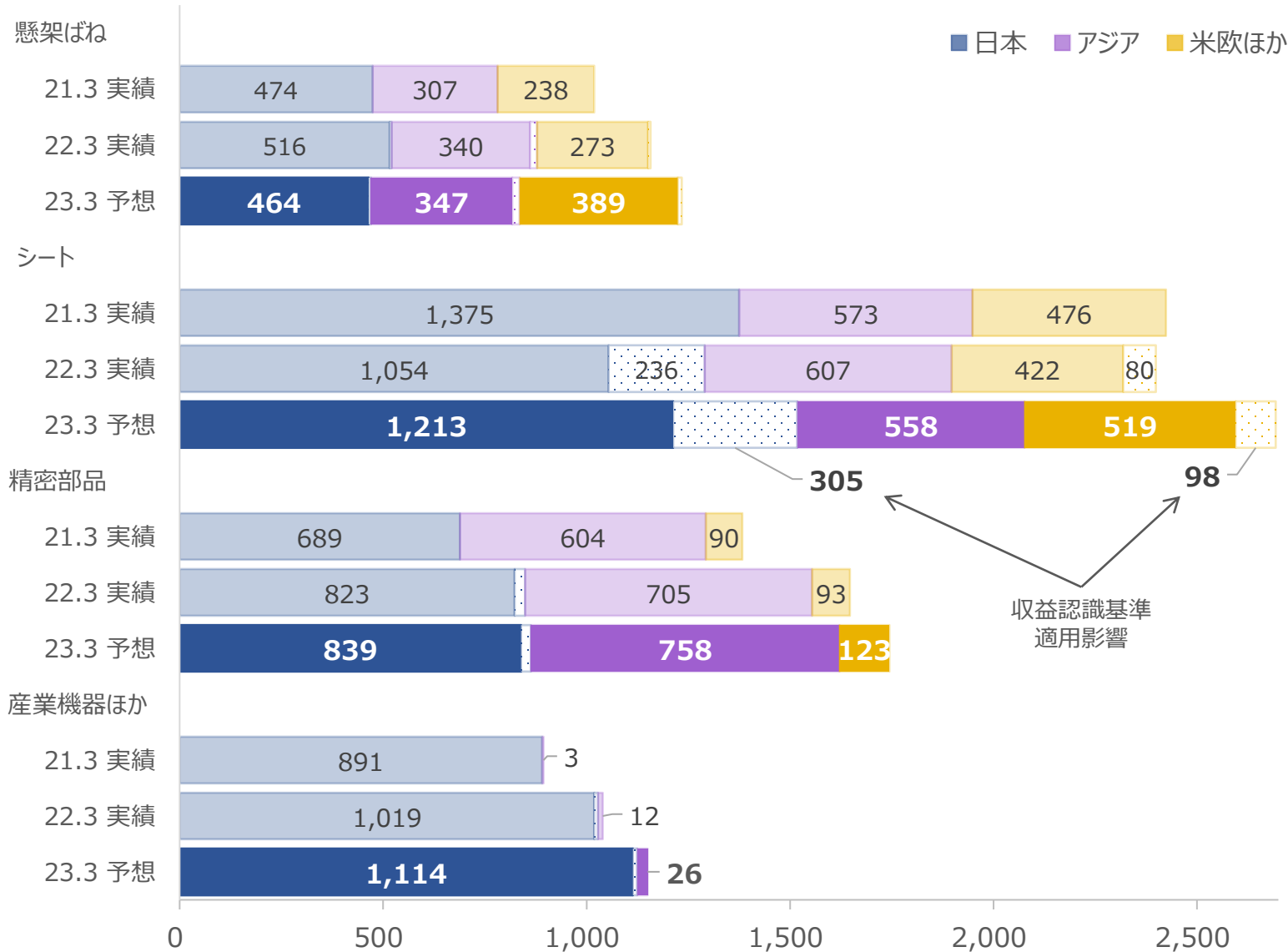
補足資料

主要海外拠点



懸架ばね	精密部品	地域統括・事業支援
シート	産業機器ほか	全製品

売上高の分解情報（通期）



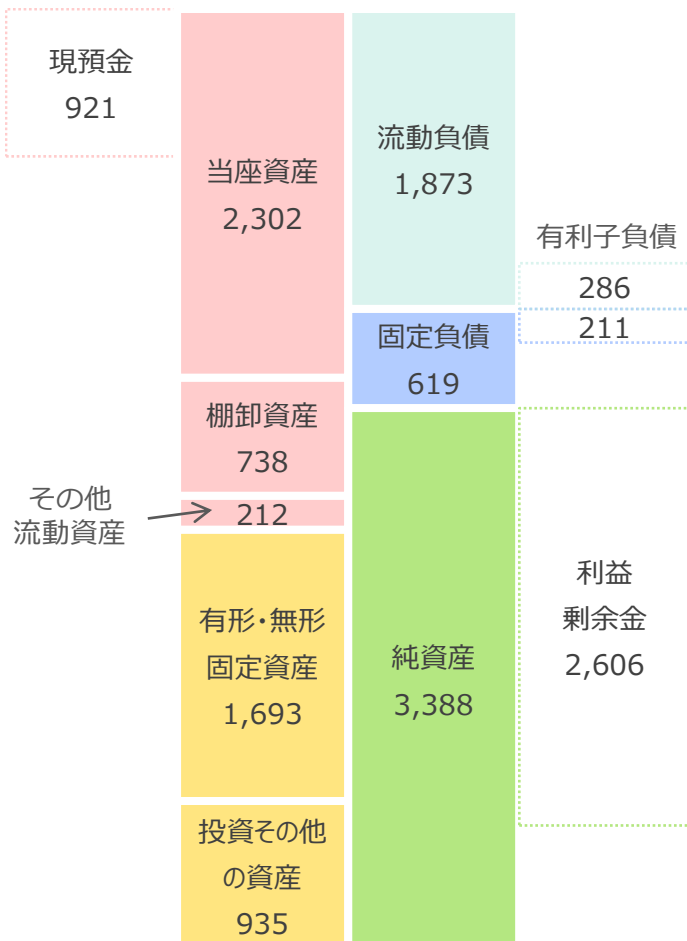
		(億円)			
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	21.3 実績	474	307	238	1,020
	22.3 実績	516	340	273	1,129
	23.3 予想	464	347	389	1,200
シート	21.3 実績	1,375	573	476	2,425
	22.3 実績	1,054	607	422	2,084
	23.3 予想	1,213	558	519	2,290
精密部品	21.3 実績	689	604	90	1,385
	22.3 実績	823	705	93	1,622
	23.3 予想	839	758	123	1,720
産業機器ほか	21.3 実績	891	3	-	895
	22.3 実績	1,019	12	-	1,031
	23.3 予想	1,114	26	-	1,140
合計	21.3 実績	3,431	1,489	805	5,726
	22.3 実績	3,413	1,665	790	5,869
	23.3 予想	3,630	1,690	1,030	6,350

(億円)

	18.3期 実績	19.3期 実績	20.3期 実績	21.3期 実績	22.3期 実績	増減額
総資産	5,683	5,731	5,326	5,607	5,880	273
自己資本	2,928	2,811	2,709	2,839	3,226	386
自己資本比率	51.5%	49.0%	50.9%	50.6%	54.9%	4.2%
現預金	952	985	745	793	921	127
有利子負債	532	682	575	692	497	△194
ネットキャッシュ	419	303	170	100	423	322

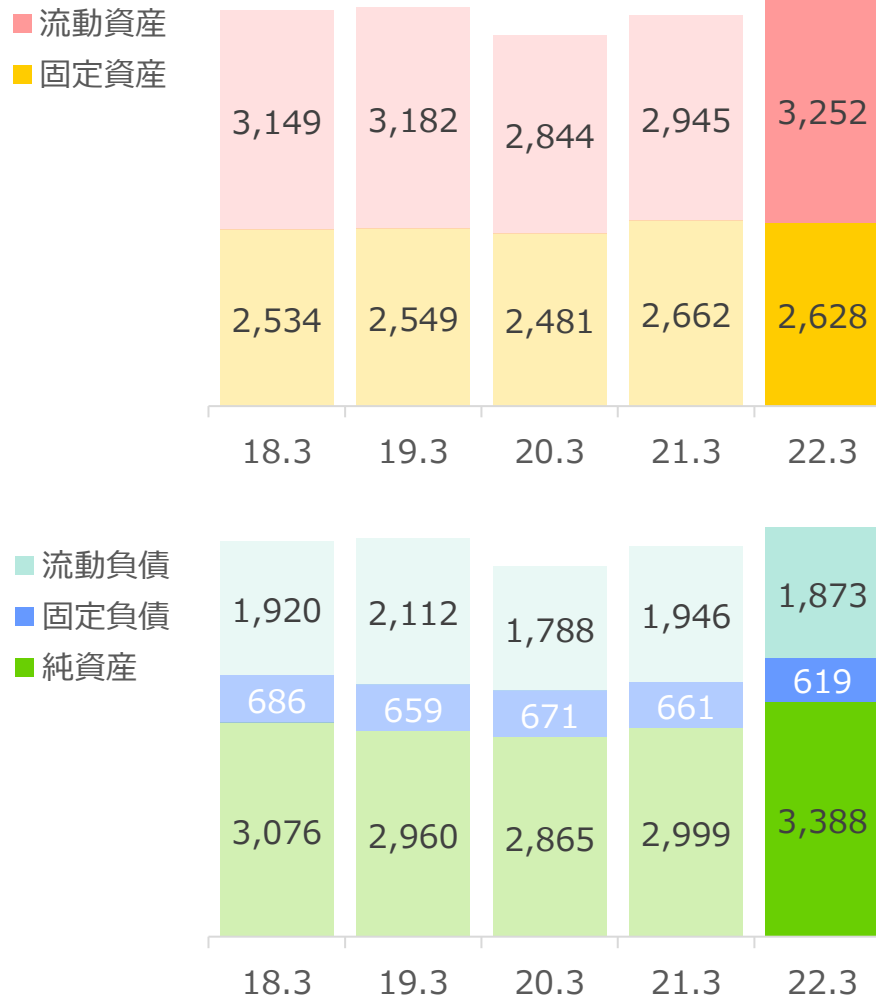
22.3期 実績

(億円)



バランス・シート推移

(億円)



▼資産

自動車メーカーの生産調整等の影響を受け棚卸資産が増加。

また、保有不動産の売却により一時的に現預金が増加。

▼負債

借入金返済のほか、営業取引の減少による営業債務減少により負債残高は減少。

▼純資産

為替換算調整勘定が増加。また当期純利益により利益剰余金が増加。

設備投資・減価償却費（事業別）

(億円)

	21.3期 実績	22.3期		22.3期 実績	23.3期 予想
		5月時点予想	11月時点予想		
設備投資					
懸架ばね	49	57	49	30	83
シート	62	57	49	50	74
精密部品	105	126	144	113	212
産業機器ほか	24	38	36	30	69
全社共有	7	13	11	7	16
合計	249	293	292	232	456
前期比	△37.3%	17.4%	17.1%	△6.9%	96.4%
減価償却費					
懸架ばね	59	71	68	66	69
シート	51	50	52	48	51
精密部品	109	114	114	114	119
産業機器ほか	37	39	37	36	39
全社共有	16	11	14	17	18
合計	274	287	287	283	297
前期比	4.1%	4.6%	4.5%	2.9%	5.2%

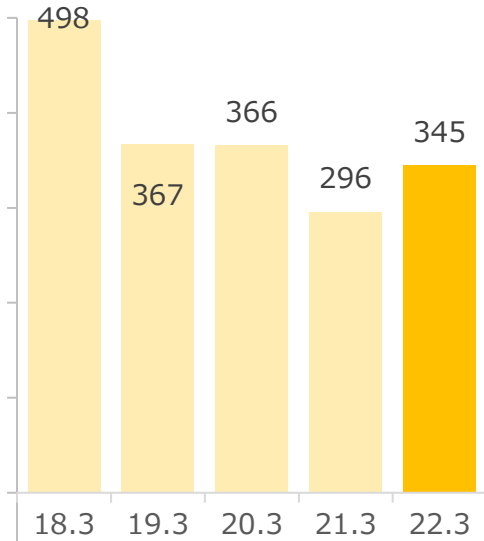
設備投資・減価償却費（地域別）

(億円)

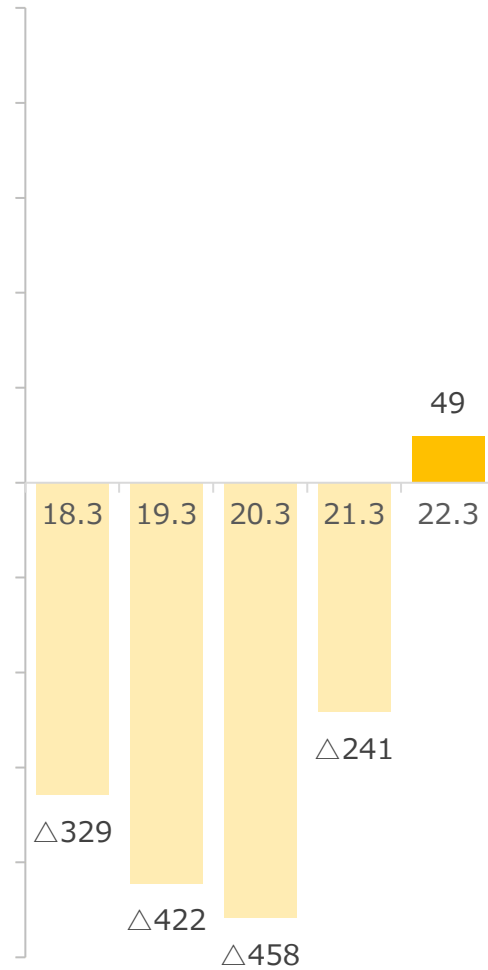
		21.3期 実績	5月時点予想		22.3期 実績	23.3期 予想
			5月時点予想	11月時点予想		
設備投資	日本	138	168	167	130	234
	アジア	63	85	92	73	138
	米欧ほか	48	38	32	28	83
	海外計	111	124	125	102	222
	合計	249	293	292	232	456
減価償却費	日本	164	172	168	165	167
	アジア	71	71	74	73	83
	米欧ほか	39	43	44	44	46
	海外計	110	115	119	117	130
	合計	274	287	287	283	297

キャッシュ・フローの状況

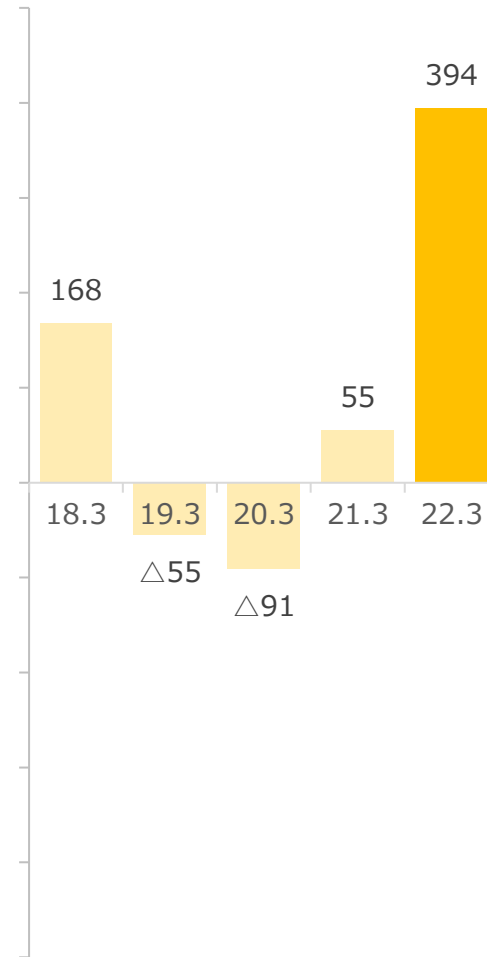
営業CF



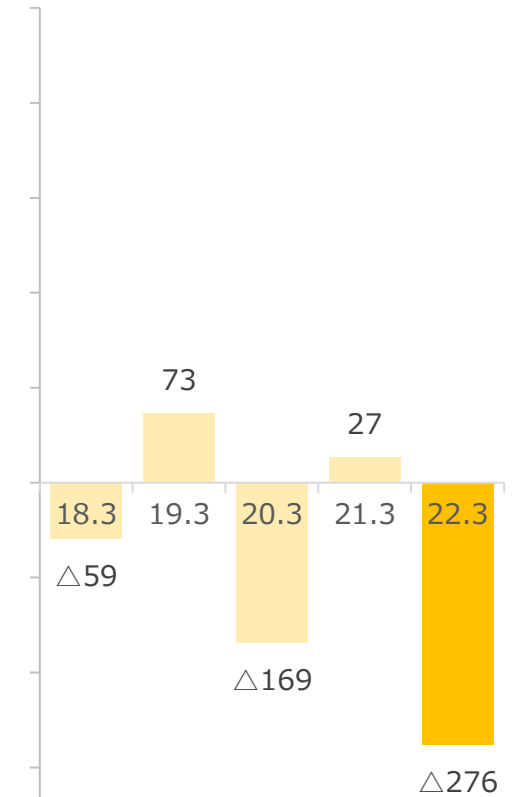
投資CF



フリーCF



財務CF



(億円)

2023中計達成に向けて

(億円)

	21.3期 (20年度) 実績	22.3期 (21年度) 実績	23.3期 (22年度) 予想	24.3期 (23年度) 目標
売上高	5,726	5,869	6,350	6,500
営業利益	104	213	380	400
営業利益率	1.8%	3.6%	6.0%	6.2%
経常利益	145	306	400	420
経常利益率	2.5%	5.2%	6.3%	6.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	93	319	240	250
自己資本利益率 (ROE)	3.4%	10.5%	7.3%	8.0%

▽24.3期目標達成に向けて

新型コロナウイルス感染症や半導体供給不足等の影響により、自動車生産台数の回復ペースは中期経営計画前提から遅れる一方で、HDD用サスペンションや半導体プロセス部品等の情報通信関連事業は中期経営計画を上回るペースで好調に推移する見込み。

計画達成に向けて、諸施策に取り組んでまいります。

セグメント別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		21.3期 (20年度) 実績	22.3期 (21年度) 実績	23.3期 (22年度) 予想	24.3期 (23年度) 目標
■ 懸架ばね	売上高	1,020	1,129	1,200	1,210
	営業利益	△46	△43	10	30
	営業利益率	△4.6%	△3.9%	0.8%	2.5%
■ シート	売上高	2,425	2,084	2,290	2,400
	営業利益	19	△28	57	80
	営業利益率	0.8%	△1.4%	2.5%	3.3%
■ 精密部品	売上高	1,385	1,622	1,720	1,790
	営業利益	68	178	188	180
	営業利益率	4.9%	11.0%	10.9%	10.1%
■ 産業機器ほか	売上高	895	1,031	1,140	1,100
	営業利益	63	107	125	110
	営業利益率	7.1%	10.4%	11.0%	10.0%
合計	売上高	5,726	5,869	6,350	6,500
	営業利益	104	213	380	400
	営業利益率	1.8%	3.6%	6.0%	6.2%

■ 懸架ばね・シート

自動車生産台数の回復及び合理化により業績改善。

■ 精密部品

高容量データセンター向けHDD用サスペンション、モーターコアの好調。

■ 産業機器ほか

半導体プロセス部品、金属基板等が好調。

地域別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		21.3期 (20年度) 実績	22.3期 (21年度) 実績	23.3期 (22年度) 予想	24.3期 (23年度) 目標
●日本	売上高	3,431	3,413	3,630	4,090
	営業利益	100	201	262	270
	営業利益率	2.9%	5.9%	7.2%	6.6%
●アジア	売上高	1,489	1,665	1,690	1,500
	営業利益	64	102	130	110
	営業利益率	4.3%	6.1%	7.7%	7.3%
●米欧ほか	売上高	805	790	1,030	910
	営業利益	△59	△90	△12	20
	営業利益率	△7.4%	△11.4%	△1.2%	2.2%
合計	売上高	5,726	5,869	6,350	6,500
	営業利益	104	213	380	400
	営業利益率	1.8%	3.6%	6.0%	6.2%

●日本

HDD用サスペンションや半導体プロセス部品等の情報通信関連事業が業績牽引。

●アジア

HDD用サスペンションが業績牽引。

●米欧ほか

懸架ばね米国拠点の黒字化、及び欧州拠点の収支改善。

設備投資・減価償却費

(億円)

		21.3期 (20年度) 実績	22.3期 (21年度) 実績	23.3期 (22年度) 予想	24.3期 (23年度) 計画	3カ年合計	2023中計 3カ年合計
設備投資	国内	138	130	234	171	535	536
	海外	111	102	222	117	441	343
	合計	249	232	456	288	976	880
減価償却費	国内	164	165	167	179	511	535
	海外	110	117	130	119	366	349
	合計	274	283	297	298	878	885

▽23中計から追加となった設備投資

- ・ モーターコア生産設備関連
- ・ HDD用サスペンションライン増設
- ・ 半導体プロセス部品、金属基板生産能力増強
- ・ メキシコ巻ばね生産ライン増設

よくあるご質問と回答

Question

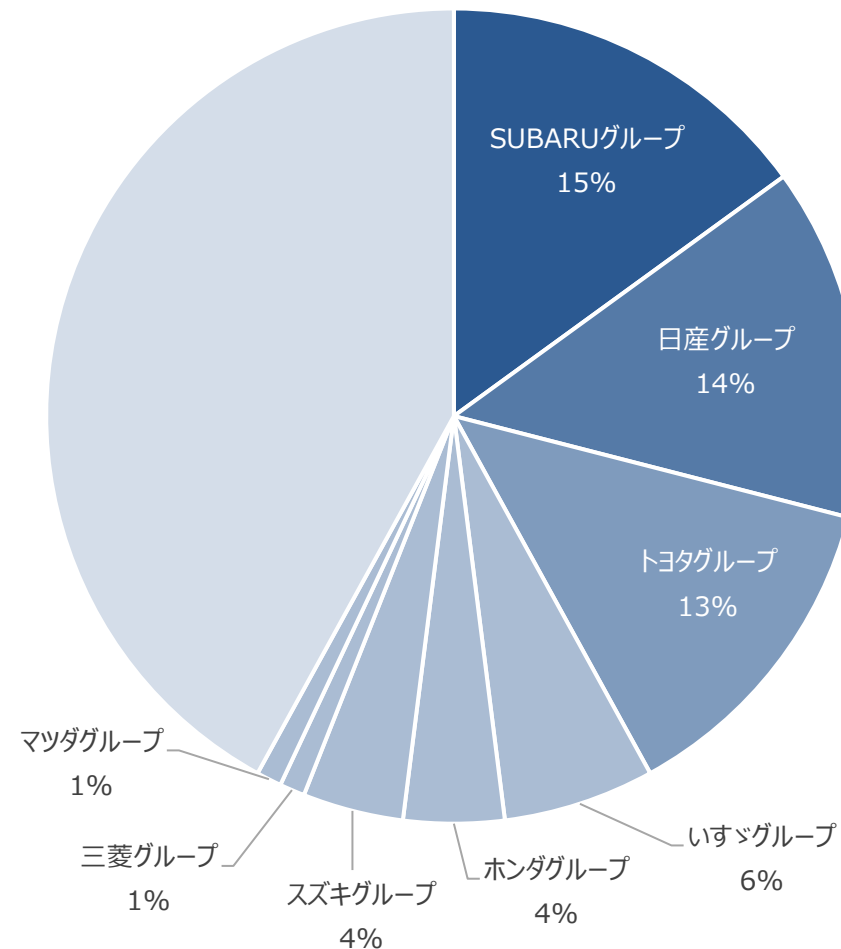
：主要カーメーカーへの売上比率は？

Answer

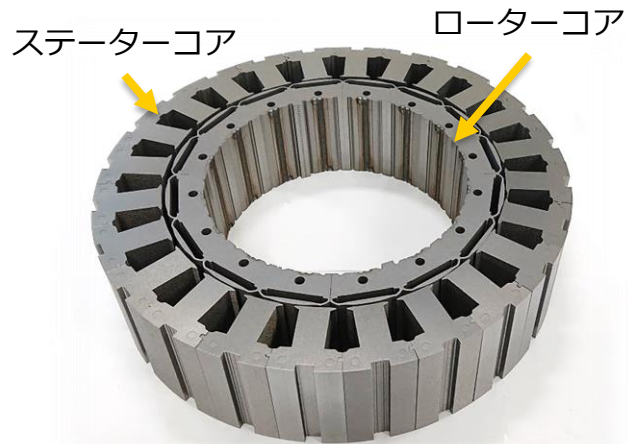
：22年3月期の実績は下表のとおりとなっております。

主要カーメーカー	21.3期 実績	22.3期 実績
SUBARUグループ	16%	15%
日産グループ	17%	14%
トヨタグループ	12%	13%
いすゞグループ	5%	6%
ホンダグループ	4%	4%
スズキグループ	4%	4%
三菱グループ	1%	1%
マツダグループ	1%	1%
上位3社	45%	42%

(注) 比率は総売上高に対する割合



■モーターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

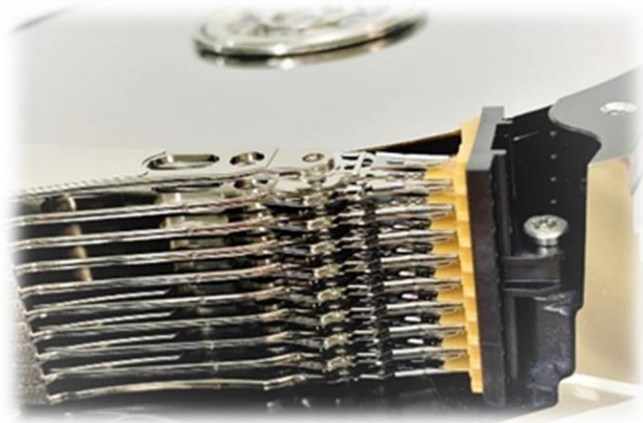
モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術や、HDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。



HDD用サスペンションは、HDDの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

近年HDDはパソコン向けよりも、SNSや動画共有サイトなどのデータセンター向けが多くなっています。データセンターではギガサイズのファイルを大量に保存するため、大容量HDDが数十万個単位で並んでいて、そのHDD一つ一つに多くのHDD用サスペンションが搭載されています。左の写真ではHDD 1台に18個、データセンター全体では膨大な数です。

大容量HDD用サスペンションには、超小型アクチュエータが組み込まれており、データを読み書きする微小部品を微細に動かし、ディスク上のデータをより高密度で読み書きする事が出来ます。

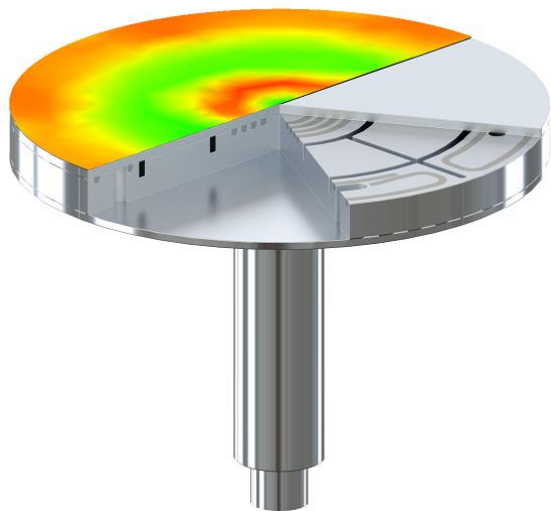
この超小型アクチュエータを、中央部に組み込んだものをDSA、先端部に組み込んだものをCLAと呼んでいます。人の腕で例えるなら、DSAは手首、CLAは指先が動くイメージです。またさらに高性能な製品としてDSAとCLAの両方を組み込んだTSAを開発・量産化しました。繊細かつダイナミックな動きが可能で、データセンターで使用するHDDのさらなる大容量化に貢献します。

今後は超大容量HDDに適した、より高性能なTSAの数量を伸ばすことを計画しております。

- *CLA = Co-Located Actuatorの略
- *DSA = Dual Stage Actuatorの略
- *TSA = Triple Stage Actuatorの略



■ 成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



■ エッチング装置用溶射付冷却板



半導体はシリコンの基板の上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

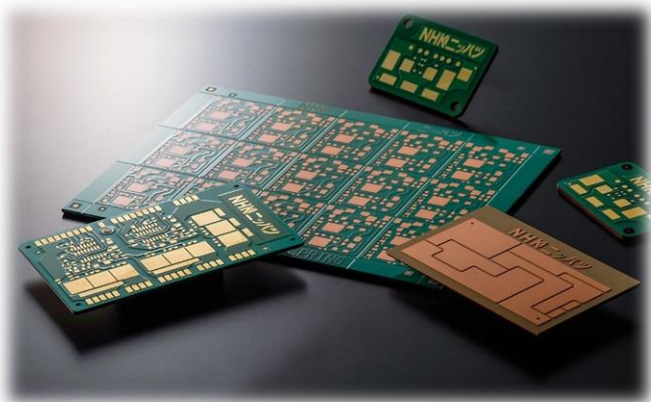
*CVD；Chemical Vapor Deposition（化学気相成長）の略

*ALD；Atomic Layer Deposition（原子層堆積）の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

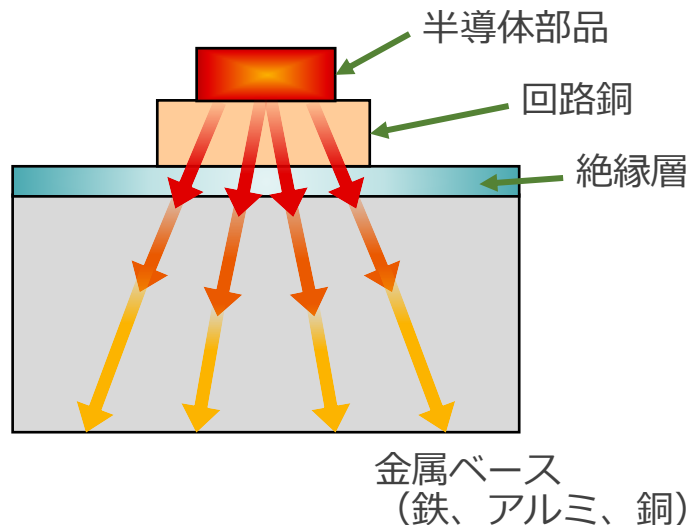
近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。



金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当社IMSが多く使用されております。

■ IMSの断面構造図



当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発から製造、そしてIMSに仕立てるまでの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

NHKニッパツ

- 本資料に記載している日本発条(株)の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。
- 本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。
- この資料の著作権は日本発条(株)に帰属しております。
- 無断転載・複製することを禁じます。